

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成19年4月1日
(第73期) 至 平成20年3月31日

新光電気工業株式会社

長野県長野市小島田町80番地

(E01957)

目次

ページ

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	6
5. 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1. 業績等の概要	9
2. 生産、受注および販売の状況	10
3. 対処すべき課題	11
4. 事業等のリスク	12
5. 経営上の重要な契約等	13
6. 研究開発活動	13
7. 財政状態および経営成績の分析	14
第3 設備の状況	16
1. 設備投資等の概要	16
2. 主要な設備の状況	16
3. 設備の新設、除却等の計画	17
第4 提出会社の状況	18
1. 株式等の状況	18
(1) 株式の総数等	18
(2) 新株予約権等の状況	18
(3) ライツプランの内容	18
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	18
(5) 所有者別状況	18
(6) 大株主の状況	19
(7) 議決権の状況	20
(8) ストックオプション制度の内容	20
2. 自己株式の取得等の状況	21
3. 配当政策	22
4. 株価の推移	22
5. 役員の状況	23
6. コーポレート・ガバナンスの状況	25
第5 経理の状況	27
1. 連結財務諸表等	28
(1) 連結財務諸表	28
(2) その他	55
2. 財務諸表等	56
(1) 財務諸表	56
(2) 主な資産および負債の内容	74
(3) その他	76
第6 提出会社の株式事務の概要	77
第7 提出会社の参考情報	78
1. 提出会社の親会社等の情報	78
2. その他の参考情報	78
第二部 提出会社の保証会社等の情報	79

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年6月30日
【事業年度】	第73期（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）
【会社名】	新光電気工業株式会社
【英訳名】	SHINKO ELECTRIC INDUSTRIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 黒岩 護
【本店の所在の場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026) 283-1000 (代表)
【事務連絡者氏名】	総務部長 清野 貴博
【最寄りの連絡場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026) 283-1000 (代表)
【事務連絡者氏名】	総務部長 清野 貴博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月
売上高 (百万円)	135,882	150,584	157,806	205,859	215,007
経常利益 (百万円)	10,734	17,486	28,202	34,887	21,050
当期純利益 (百万円)	8,080	9,386	16,338	19,225	11,336
純資産額 (百万円)	92,254	100,737	117,288	134,193	143,193
総資産額 (百万円)	153,056	158,499	175,541	198,862	198,475
1株当たり純資産額 (円)	2,054.25	2,243.26	2,603.29	1,000.33	1,059.98
1株当たり当期純利益 (円)	177.70	206.80	361.13	142.32	83.92
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	206.75	360.94	142.30	—
自己資本比率 (%)	60.3	63.6	66.8	68.0	72.1
自己資本利益率 (%)	9.09	9.73	14.99	15.23	8.15
株価収益率 (倍)	18.23	17.31	29.57	18.69	13.41
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	19,523	30,382	32,670	25,909	37,644
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△15,692	△15,129	△15,223	△37,400	△24,259
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,446	△6,106	△11,406	△5,607	△3,622
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	33,877	43,197	49,872	32,990	41,885
従業員数 (人)	5,073	5,004	4,944	4,941	4,941

(注) 1. 売上高には消費税および地方消費税（以下「消費税等」という）は含まれておりません。

2. 第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

第73期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 当社は、平成18年3月8日開催の取締役会の決議により、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割を実施しており、平成18年3月末時点の株価は権利落ち後の株価となっております。そのため、第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益および株価収益率を算定する株価については、1株当たり純資産額等との整合性をはかることから、権利落ち後の株価に分割割合を乗じております。

4. 第72期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号）および「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号）を適用しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月
売上高 (百万円)	132,543	146,121	153,123	200,100	209,582
経常利益 (百万円)	9,660	16,415	27,403	33,584	20,357
当期純利益 (百万円)	6,902	8,785	15,930	18,602	11,933
資本金 (百万円)	24,223	24,223	24,223	24,223	24,223
発行済株式総数 (千株)	45,057	45,057	45,057	135,171	135,171
純資産額 (百万円)	92,988	100,607	115,952	132,880	141,674
総資産額 (百万円)	152,426	157,428	173,043	195,398	196,303
1株当たり純資産額 (円)	2,070.61	2,240.35	2,573.61	983.63	1,048.73
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	24.00 (12.00)	25.00 (12.00)	32.00 (13.00)	18.00 (6.00)	27.00 (9.00)
1株当たり当期純利益 (円)	151.43	193.40	352.07	137.71	88.33
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	——	193.35	351.88	137.70	——
自己資本比率 (%)	61.0	63.9	67.0	68.0	72.2
自己資本利益率 (%)	7.67	9.08	14.71	14.95	8.69
株価収益率 (倍)	21.40	18.51	30.34	19.32	12.74
配当性向 (%)	15.85	12.93	9.09	13.07	30.57
従業員数 (人)	4,185	4,098	4,079	4,056	4,068

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第69期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

第73期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 当社は、平成18年3月8日開催の取締役会の決議により、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割を実施しており、平成18年3月末時点の株価は権利落ち後の株価となっております。そのため、第71期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益および株価収益率を算定する株価については、1株当たり純資産額等との整合性をはかることから、権利落ち後の株価に分割割合を乗じております。

2 【沿革】

新光電気工業株式会社（当社）の前身である合資会社長野家庭電器再生所が、昭和21年2月より家庭用電球のリサイクル事業を開始いたしました。その後、わが国工業の復興に伴い、ランプ、工業計器用部品の需要が増大しましたことから、事業拡大のため、昭和21年9月12日、新光電気工業株式会社に改組、改称いたしました。

昭和21年9月	新光電気工業株式会社設立（本店所在地 埼玉県浦和市（現 埼玉県さいたま市））
昭和24年4月	東京都大田区に本店を移転
昭和28年5月	ガラス端子の製造・販売開始
昭和30年10月	東京都板橋区に本店を移転
昭和32年6月	半導体分野への新規事業展開を図るため、富士通信機製造株式会社（現 富士通株式会社）の資本参加を得ました。
昭和32年12月	長野県長野市に栗田工場を開設
昭和34年7月	長野県長野市に本店を移転
昭和34年9月	東京都港区に東京事務所（現 東京営業所）を開設
昭和38年6月	長野県長野市に東北工場を開設
昭和41年10月	セラミックパッケージの製造・販売開始
昭和43年4月	リードフレームの製造・販売開始
昭和48年4月	長野県長野市に新光パーツ株式会社を設立
昭和50年2月	大阪府大阪市に大阪事務所（現 大阪営業所）を開設
昭和51年1月	精密接触部品の製造・販売開始
昭和51年4月	セラミックサーミアレスタの製造・販売開始
昭和52年3月	アメリカ合衆国カリフォルニア州にSHINKO ELECTRIC AMERICA, INC. を設立
昭和53年9月	新潟県新井市（現 新潟県妙高市）に新井工場を開設
昭和54年7月	ICの組立・販売開始
昭和55年9月	長野県中野市に高丘工場を開設
昭和59年12月	東京証券取引所市場第二部に上場
昭和60年9月	鹿児島県始良郡加治木町に南九州営業所を開設
昭和61年4月	宮城県仙台市に東北営業所を開設
昭和61年7月	シンガポール共和国にSHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD. を設立
昭和62年12月	大韓民国全羅南道に韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社を設立
平成元年3月	愛知県安城市に東海営業所を開設
平成2年3月	福岡県福岡市に北九州営業所を開設
平成2年11月	マレーシアにSHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD. を設立
平成3年11月	長野県長野市に若穂開発センター（現 若穂工場）を開設
平成4年5月	大韓民国ソウル市に韓国新光商社株式会社を設立
平成4年10月	長野県長野市に新光テクノサーブ株式会社を設立
平成5年4月	熊本県熊本市に熊本営業所を開設
平成5年11月	台湾台北市に台新電子股份有限公司を設立
平成5年12月	新潟県北蒲原郡京ヶ瀬村（現 新潟県阿賀野市）に京ヶ瀬工場を開設
平成6年4月	北九州営業所を大分県大分市に移転し、大分営業所と改称
平成7年4月	PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）の製造・販売開始
平成8年1月	フィリピン共和国にマニラ駐在員事務所を開設
平成8年9月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成11年2月	ドイツ連邦共和国にデュッセルドルフ駐在員事務所を開設
平成12年9月	中華人民共和国上海市に上海駐在員事務所を開設
平成14年2月	長野県長野市に新光開発センターを開設
平成16年7月	熊本営業所を福岡県福岡市に移転し、福岡営業所と改称 栗田工場を栗田総合センターと改称
平成16年9月	デュッセルドルフ駐在員事務所を移転し、フランクフルト駐在員事務所と改称
平成16年12月	東海営業所を愛知県名古屋市に移転
平成18年1月	東北営業所を仙台営業所と改称 東海営業所を名古屋営業所と改称
平成18年3月	南九州営業所を福岡営業所に統合
平成19年11月	中華人民共和国四川省に成都駐在員事務所を開設

3【事業の内容】

当社および子会社10社（うち連結子会社9社）は、着実な進歩を続けるエレクトロニクス産業にあって、半導体パッケージのリーディングカンパニーとして幅広い半導体実装技術に基づく製品の開発・製造・販売を主な事業内容としております。また、当社は富士通株式会社の子会社であります。

当社は、リードフレーム、PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）、ガラス端子等の半導体パッケージの開発・製造および販売ならびにICの組立・販売を主要な事業としており、開発・設計から出荷に至る一貫生産体制によりさまざまな半導体パッケージ等を製造しております。

なお、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は電子・通信機器部品の製造・販売のみを行っている単一セグメントに該当し、事業の種類別セグメント情報を記載していないため、「第2 事業の状況」等につきましては、以下の製品区分により記載しております。

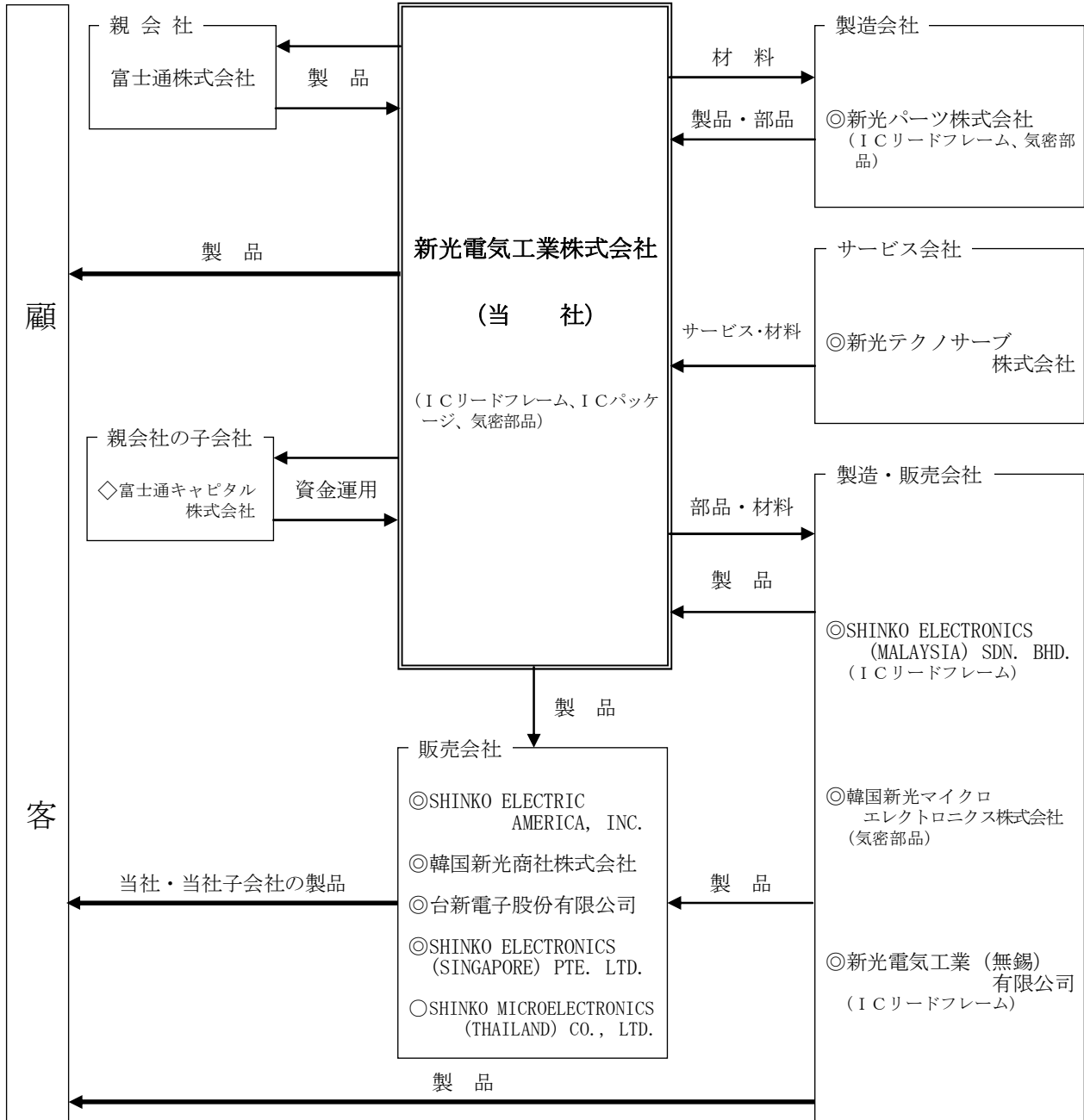
製品区分	主要製品および当社グループ各社の事業内容
ICリードフレーム部門……	半導体用リードフレーム これらの製品は、当社が主に製造・販売を行っております。 国内子会社の新光パーツ株式会社は、当社製品の外注加工等を行っております。 在外子会社のSHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.および新光電気工業（無錫）有限公司は、リードフレームの製造・販売を行っており、当社は同2社に対して部品の供給を行っております。
ICパッケージ部門……	PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）、ICの組立 これらの製品は、当社が主に製造・販売を行っております。
気密部品部門……	半導体用ガラス端子、セラミック静電チャック、アレスタ、精密接触部品 これらの製品は、当社が主に製造・販売を行っております。 国内子会社の新光パーツ株式会社は、当社への部品の供給等を行っております。 在外子会社の韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社は、ガラス端子等の製造・販売を行っており、当社は同社に対して製品の製造委託等を行っております。

上記のほか、新光テクノサーブ株式会社は、当社へのサービスの提供および材料の供給等を行っており、SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.、韓国新光商社株式会社、台新電子股份有限公司およびSHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD. は、当社グループの製品の販売を行っております。

当社の親会社である富士通株式会社は、富士通グループ各社とともに、IT分野において、最先端かつ高性能、高品質を備えた強いテクノロジーをベースに、品質の高いプロダクト、電子デバイスおよびこれらを活用した各種サービスの提供によるトータルソリューションビジネスを営んでおり、ソフトウェア・サービス、情報処理および通信分野の製品の開発、製造、販売およびサービスの提供を行っております。当社と富士通株式会社との間における主な取引は、同社への半導体パッケージの販売であります。また、当社は親会社の子会社である富士通キャピタル株式会社に資金運用の委託を行っております。

以上の内容を事業系統図に示すと次のとおりであります。

(事業系統図)



- (注) 1. ◎は連結子会社を示しております。
2. ○は持分法非適用の非連結子会社を示しております。
3. ◇は関連当事者(当社の関係会社を除く)を示しております。

4【関係会社の状況】

(1) 親会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の被所有割合 (%)	関係内容
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区	324,625	ソフトウェア・サービス、情報処理および通信分野の製品の開発、製造、販売およびサービスの提供	50.06 (0.03)	製品の売買、技術援助契約の締結、親会社からの役員の派遣1名(うち親会社役員0名)

- (注) 1. 議決権の被所有割合の()内は間接保有割合で、内数であります。
2. 富士通株式会社は、有価証券報告書を提出しております。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
新光パーツ株式会社	長野県長野市	百万円 20	リードフレームの外注加工およびガラス端子部品の製造・販売	100.0	当社への部品の供給、当社製品の外注加工、役員の派遣4名(うち当社役員1名)
新光テクノサーブ株式会社	長野県長野市	百万円 40	各種業務の請負および薬液の製造・販売	100.0	当社へのサービスの提供および材料の供給、役員の派遣9名(うち当社役員1名)
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア	千マレーシア リンギット 68,000	リードフレームの製造・販売	100.0	当社からの部品の供給、借入等に対する債務保証、役員の派遣3名(うち当社役員1名)
韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社	大韓民国	百万ウォン 11,900	ガラス端子、アレスタの製造・販売	100.0	当社製品の製造委託、役員の派遣3名(うち当社役員1名)
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.	アメリカ合衆国	千米ドル 7,500	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣2名(うち当社役員1名)

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
韓国新光商社株式会社	大韓民国	百万ウォン 200	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣2名（うち当社役員2名）
台新電子股份有限公司	台湾	千台湾元 8,000	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣4名（うち当社役員2名）
SHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.	シンガポール共和国	千シンガポールドル 100	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣3名（うち当社役員0名）
新光電気工業（無錫）有限公司	中華人民共和国	千米ドル 4,500	リードフレームの製造・販売	100.0	当社からの部品の供給、役員の派遣4名（うち当社役員2名）

(注) 1. SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD. は、特定子会社に該当いたします。

2. 子会社の議決権に対する所有割合はすべて直接所有のものであり、間接所有のものはありません。

3. SHINKO MICROELECTRONICS IRELAND LIMITEDは、平成20年3月18日をもって清算終了いたしました。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

当社グループは単一セグメントに該当しており、製品の種類等により従業員を区分することが困難なため、従業員数は、当社、国内子会社、在外子会社の区分により記載しております。

平成20年3月31日現在

区分	従業員数（人）
当社	4,068
国内子会社	157
在外子会社	716
合計	4,941

(注) 従業員数は、就業人員数（当社グループ外部からグループへの出向者を含み、当社グループからグループ外部への出向者を含まない）により記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
4,068	40.0	17.7	7,233,021

(注) 1. 従業員数は、就業人員数（当社への出向者を含み、当社からの出向者を含まない）により記載しております。

2. 平均年間給与（税込）は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

- a. 名称 : 新光電気労働組合
- b. 組合員数 : 3,842人
- c. 所属上部団体名 : 全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会
- d. 労使関係 : 健全な労使関係を維持しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度の経済環境は、日本におきましては、期前半はアジア向けを中心として輸出の増加基調が続いたほか、堅調な企業収益を背景に、設備投資や個人消費も底堅く推移し、緩やかな景気拡大が継続しました。しかしながら、米国のサブプライムローン問題を発端とする世界的な金融市場の混乱や原油・原材料価格の高騰、急激な為替相場の変動等、期後半にかけて先行き不透明感が一段と強まる状況となりました。海外におきましては、米国では住宅市場の調整が長期化するとともに、雇用環境の悪化や個人消費の低迷など、景気の減速傾向が鮮明となりました。一方、アジア地域においては、米国向け輸出鈍化の影響が懸念されたものの、新興諸国向けの輸出が堅調であったことなどから、総じて高い成長率を維持しました。

半導体業界につきましては、携帯電話や薄型テレビをはじめとするデジタル家電向けに、グローバルな需要拡大が持続し、パソコン市場もノート型を牽引役として堅調に推移したものの、競争激化に伴う製品価格の低下が継続して進行するなど、厳しい市場環境のうちに推移しました。

このような環境下にあつて、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は、市場のニーズに対応した新商品の開発ならびに量産体制の整備をはかるとともに、積極的な受注活動を展開した結果、当連結会計年度の連結売上高は、2,150億7百万円（対前期比4.4%増）となりました。収益面につきましては、全部門における生産革新活動の推進により生産性向上に努めたものの、製品価格の低下や減価償却費負担の増加に加えて、第4四半期に入り急激に進行したドル安・円高の影響を大きく受けたことなどから、連結経常利益は210億50百万円（対前期比39.7%減）、連結当期純利益は113億36百万円（同41.0%減）となりました。

部門別の状況は次のとおりであります。なお、当社グループは単一セグメントに該当いたしますので、部門別の状況は「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載した製品区分により、販売の状況等を表示しております。

ア. ICリードフレーム部門

DRAM向けのLOC（リード・オン・チップ）タイプリードフレーム、およびプレスリードフレームは、デジタル家電用途を中心に受注を伸ばし、エッチングリードフレームについても、携帯電話向けなどの需要が底堅く推移したことから、いずれも売上が増加いたしました。この結果、当部門の売上高は284億16百万円（対前期比12.2%増）となりました。

なお、単独ベースでの生産実績は229億96百万円（対前期比18.1%増）、受注高は247億58百万円（同20.7%増）、受注残高は17億87百万円（同33.4%増）であります。

イ. ICパッケージ部門

DRAM向けのBOC（ボード・オン・チップ）タイプBGA（ボール・グリッド・アレイ）基板は、製品価格低下の影響を大きく受け、売上が減少いたしました。パソコンおよび家庭用ゲーム機向けのフリップチップタイプパッケージにつきましては、期初に一部の製品で在庫調整の影響を受けたことにより、売上は前期並となりました。一方、携帯電話向けのカメラモジュール組立を中心として、アセンブリ事業の伸長が継続したほか、MPU向けのヒートスプレッダーも売上が増加いたしました。この結果、当部門の売上高は1,657億23百万円（対前期比5.0%増）となりました。

なお、単独ベースでの生産実績は1,578億83百万円（対前期比7.5%増）、受注高は1,645億21百万円（同1.9%増）、受注残高は95億3百万円（同23.3%減）であります。

ウ. 気密部品部門

携帯電話向けの精密接触部品が順調に受注を伸ばし、半導体および液晶製造装置向けのセラミック静電チャックならびに光素子用ガラス端子の需要も底堅く推移いたしました。前期末をもって生産を終息させたLIDの売上減少分もあり、当部門の売上高は208億56百万円（対前期比7.9%減）となりました。

なお、単独ベースでの生産実績は196億7百万円（対前期比4.0%減）、受注高は198億6百万円（同7.4%減）、受注残高は11億6百万円（同21.0%減）であります。

また、所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

ア. 日本

携帯電話向けのカメラモジュール組立を中心とするアセンブリ事業の伸長が継続したほか、MPU向けのヒートスプレッダーの受注増加などにより、売上高は1,810億28百万円（対前期比10.3%増）となりました。収益面につきましては、製品価格の低下や減価償却費負担の増加などもあり、営業利益は241億73百万円（同29.0%減）となりました。

イ. アジア

競争激化に伴う製品価格の低下が進行したことなどにより、売上高は145億25百万円（対前期比14.1%減）、営業利益は2億48百万円（同37.2%減）となりました。

ウ. アメリカ

雇用環境の悪化や個人消費の低迷など、景気の減速傾向が鮮明となったほか、期初に一部の製品で在庫調整の影響を受けたことなどから、売上高は194億52百万円（対前期比21.8%減）、営業利益は5億14百万円（同25.2%減）となりました。

（注） 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。（以下「第2 事業の状況」において同じ）

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における「現金及び現金同等物」（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ88億94百万円増加し、418億85百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、当連結会計年度には前連結会計年度に比べ、117億34百万円（45.3%）増加し376億44百万円となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益203億17百万円、減価償却費245億39百万円により資金が増加した一方、法人税等の支払額131億7百万円により資金が減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、当連結会計年度には前連結会計年度に比べ、131億41百万円（35.1%）減少し242億59百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出241億7百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、当連結会計年度には前連結会計年度に比べ、19億85百万円（35.4%）減少し36億22百万円となりました。主な要因は、配当金の支払28億36百万円によるものであります。

2 【生産、受注および販売の状況】

当社グループは単一セグメントに該当いたしますので、「生産、受注および販売の状況」につきましては、「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載した製品区分により表示しております。

なお、当社連結子会社は、当社への製品・部品等の販売、当社製品の外注加工あるいは当社製品の販売等を主要な事業としているため、生産および受注の状況については、「1 業績等の概要」に含めて単独ベースで記載しております。

(1) 生産実績

「1 業績等の概要」に含めて記載しております。

(2) 受注状況

「1 業績等の概要」に含めて記載しております。

(3) 販売実績

部門	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	前年同期比 (%)
ICリードフレーム (百万円)	28,416	112.2
ICパッケージ (百万円)	165,723	105.0
気密部品 (百万円)	20,856	92.1
その他 (百万円)	11	92.4
合計 (百万円)	215,007	104.4

- (注) 1. 当社グループは単一セグメントに該当いたしますので、「第1 企業の概況 3 事業の内容」の製品区分により記載しております。
2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
INTEL CORPORATION	53,262	25.9	52,917	24.6
岩手東芝エレクトロニクス株式会社	19,452	9.4	31,125	14.5

3 【対処すべき課題】

今後の経済環境は、日本におきましては、米国経済の減速に伴う輸出の鈍化や、原油・原材料価格のさらなる上昇、為替相場のドル安・円高基調の定着などにより、企業収益の悪化が予想され、設備投資の減少や個人消費の低迷に波及するなど、景気減速懸念が一段と強まることを見込まれます。また、米国経済につきましては、サブプライムローン問題が金融市場から実体経済へと悪影響を広げ、個人消費や設備投資の停滞感が強まるなど、景気後退期入りも想定される厳しい状況が継続するものと思われまます。

半導体業界につきましては、薄型テレビをはじめとするデジタル家電のほか、携帯電話やパソコンなどを牽引役として成長の持続が期待されるものの、企業間競争の一層の激化と新興国市場の比重の高まり等を背景に、製品価格の低下圧力がさらに強まることに加えて、原材料価格上昇の影響も懸念されるなど、市況は一段と厳しさを増し、予断を許さない状況が続くものと思われまます。

このような環境下において、当社グループといたしましては、半導体パッケージのリーディングカンパニーとして、最先端商品の開発スピードを加速させると同時に、機能を絞り込み、低価格を重視する市場向けの製品開発にも取り組むなど、市場のニーズに柔軟に対応し得る開発・量産体制の強化に努めてまいります。また、熾烈な競争が繰り広げられる半導体市場にあって「限りなき発展」を果たすべく、徹底した現場主義に基づく生産革新活動の推進に一段と拍車をかけ、高品質の製品を作りこむ卓越した「ものづくり」の製造現場を構築し、市場環境の変化に即応できる強固な企業体質の確立をはかってまいり所存であります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理、財務の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動

- ① 当社グループは、ワールドワイドに事業を展開しており、製品を販売している国または地域の経済状況の影響を受けるとともに、半導体市況等の影響を大きく受ける状況にあります。半導体業界は、急速な技術革新に伴い、高集積化、高速化等の進展が著しく、これに伴って製品のライフサイクルが短くなる傾向にあります。また、売上および収益とも市況環境の変化に伴う価格変動の影響を受ける可能性があります。
- ② 競合他社が、低廉な人件費、安価で高品質な部品・原材料の調達、あるいは画期的な製造技術の開発等によって、当社グループと同種の製品をより低価格で製造し供給することになった場合、売上の減少、製品価格の下落等によって、当社グループの業績を低下させる可能性が生じます。
- ③ 為替相場の変動は、当社グループの経営成績および財政状態、また、競争力にも影響し、当社グループの業績に影響を与えます。為替変動は、主に外貨建てで当社が販売する製品の価格設定に影響します。当社グループは、日本国内において多くの製造活動を行っており、輸出による売上がかなりの割合を占めているため、当社グループの業績は、円が他の通貨、とりわけ米ドルに対して円高になると悪影響を受ける可能性があります。

(2) 特定の取引先・製品・技術等への依存

- ① 当社グループ製品の販売先において、一部取引先への納入割合が高くなっており、当該取引先が、事業上または技術上の重大な問題など、何らかの理由により当社グループとの取引額を削減しなければならなくなった場合、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。
- ② 当社グループは、多数の外部の取引先から原材料および部品を購入していますが、製品の製造において使用するいくつかの原材料等については、一部の取引先に依存しています。効率的に、かつ安いコストで供給を受け続けられるかどうかは、当社グループがコントロールできないものも含めて、多くの要因に影響を受けます。当社グループの購入する原材料等には、貴金属・地金相場等の変動や、取引先からの供給遅延・中断や、原材料等の需給状況・市況環境などによっては、生産に必要な原材料等の調達不足が生じたり、製品コストの上昇要因となる場合があります。これらの原因等により、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(3) 特有の法的規制・取引慣行、重要な訴訟事件等の発生

- ① 当社グループは、ワールドワイドに事業を展開しており、各国における事業・投資の許可、国家安全保障または輸出制限、関税をはじめとするその他の輸出入規制等の政府規制の適用を受けます。また、通商、独占禁止、特許、租税、為替管理規制、環境・リサイクル関連の法的規制等の適用も受けております。これらの規制を遵守できなかった場合、当社グループの活動が制限される可能性があり、その結果、当社グループの事業成長および業績が悪影響を受ける可能性があります。
- ② 当社グループが独自に開発した技術について、特許権その他の知的財産権を取得することは競争上の優位性をもたらす一方で、その優位性の維持は保証されるわけではなく、技術の変化によっては、その価値を失う可能性があります。また、このような知的財産権等が広範囲にわたって保護できない場合や、広範囲にわたり当社グループの知的財産権等が違法に侵害されることによって訴訟等が生じた場合、多額の費用および経営資源が費やされる可能性があります。

(4) その他

地震等の自然災害によって、原材料や部品の購入、生産、製品の販売、物流やサービスの提供などに遅延や停止が生じる可能性があります。これらの遅延や停止が起これば、それが長期間にわたる場合、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

技術援助契約

当社グループが締結している主な技術援助契約は次のとおりであります。

技術導入

契約会社名	相手方の名称	契約品目	内容	契約期間
新光電気工業株式会社（当社）	富士通株式会社	I Cの組立	「I C組立品」の製造に関する技術の導入についての契約	昭和54年7月20日から 昭和55年7月19日まで 以後1年ごとの自動更新

6【研究開発活動】

当社グループは、半導体パッケージのリーディングカンパニーとして、多様化、高度化するニーズに対応しうる半導体パッケージ、半導体実装技術の研究開発に取り組んでおります。

当連結会計年度における研究開発費は43億96百万円で、主な研究開発活動としては、フリップチップタイプのMPU向けパッケージなど高密度多層配線プリント基板技術の高度化および次世代製品の開発等に注力したほか、エレクトロニクス機器の小型化、高機能化に対応する製品の事業化に向けた半導体実装技術の開発などを推進いたしました。

当社グループの研究開発は、先端技術の基礎研究活動ならびに新製品の事業化に向けた研究開発活動等を開発統括部に集約し、この開発統括部が中心となって研究開発活動を展開しております。

なお、当社グループは単一セグメントに該当しており、また、研究開発活動によって開発される技術の多くはさまざまな製品に利用されることなどから、活動の状況および当該費用を製品の種類等により区分することは困難であり、部門別等によって示すことは行っておりません。

7【財政状態および経営成績の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたりまして、連結会計年度末における資産・負債の金額および連結会計期間における収益・費用の金額に影響を与える重要な会計方針および各種引当金等の見積り方法（計上基準）につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

なお、各種引当金等の見積り数値につきましては、見積り特有の不確実性があるため実際の結果とは異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は、市場のニーズに対応した新商品の開発ならびに量産体制の整備をはかるとともに、積極的な受注活動を展開した結果、前期比4.4%増の2,150億7百万円となりました。

このうち、海外売上高は、競争激化に伴い製品価格の低下が進行したことなどにより、前期比5.7%減の1,212億44百万円となりました。また、国内売上高は、携帯電話向けのカメラモジュール組立を中心として、アセンブリ事業の伸長が継続したことなどから、前期比21.3%増の937億63百万円となりました。

収益面では、全部門における生産革新活動の推進等により生産性向上に努めたものの、製品価格の低下や減価償却費負担の増加に加えて、第4四半期に入り急激に進行したドル安・円高の影響を大きく受けたことなどにより、営業利益は前期比28.9%減の251億26百万円となりました。

営業外損益に関しては、営業外収入として受取利息7億51百万円等があったものの、営業外支出として為替差損48億50百万円および退職給付積立不足償却額5億30百万円等を計上し、経常利益は前期比39.7%減の210億50百万円となりました。

また、特別利益として、子会社清算に伴う債務免除益9億32百万円、特別損失として、不採算製品の整理等に伴う固定資産除却損7億51百万円および子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損9億12百万円を計上した結果、当期純利益は前期比41.0%減の113億36百万円となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

半導体業界は、薄型テレビをはじめとするデジタル家電のほか、携帯電話やパソコンなどを牽引役として成長の持続が期待されるものの、企業間競争の一層の激化と新興国市場の比重の高まり等を背景に、製品価格の低下圧力がさらに強まることに加え、需給バランスの変動も予想されるなど市場環境は今後も楽観できない状況が続くものと思われまます。また、高集積・高機能化の進展に伴う製品サイクルの短期化等による売上への影響に加え、原材料価格高騰の継続などによるさらなる売上原価率の上昇が懸念されます。

また、米国経済の動向等によっては、為替が不安定に推移することも予想されます。

この他、当社グループの経営成績に重要な影響が生じる可能性につきましては、「4 事業等のリスク」に記載しております。

(4) 戦略的現状と見通し

半導体産業は、急速に進化する高集積化・高速化等の技術革新により、製品の世代交代が従来以上に加速化するとともに、絶えず変化する市場のニーズを低コストかつ柔軟に対応し得る開発・生産体制を構築することを要するなど、生き残りをかけた世界規模での競争がさらに一段と激化することが予想されます。その一方で、市場の先行きは、民生機器におけるデジタル化のさらなる進展、パソコンや携帯機器の高機能化、新興国を含めた市場規模の拡大などにより、中長期的に拡大を続けていくものと見込まれます。

その中で、半導体パッケージ市場は、半導体技術の進歩に伴うパッケージの多様化および実装技術の高度化により、ICチップをパッケージに実装する技術（一次実装技術）と、パッケージングされたICをプリント配線基板に実装する技術（二次実装技術）が融合される傾向にあります。

今後、当社グループは、従来より培ってまいりました多様な半導体実装の要素技術を融合し、競争力をさらに高めた新製品、新技術の開発、市場投入を強力に推進してまいります。

また、競争激化に伴う製品価格の下落等が見込まれるなか、生産革新活動を一層加速させ、合理化、生産性の向上を進め、環境変化に耐えうる強固な企業基盤の確立をはかってまいります。

(5) 財政状態および資金の流動性についての分析

当連結会計年度末の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

総資産は1,984億75百万円で、前連結会計年度末に比べ3億86百万円の減少となりました。このうち流動資産は、キャッシュ・フローの改善により手元流動性預金が増加したことなどにより1,213億69百万円（前連結会計年度末比45億37百万円増）となりました。固定資産は、前連結会計年度における大型設備投資の実施および法人税法の改正に伴う減価償却方法の変更により、減価償却費が増加したことなどにより771億6百万円（前連結会計年度末比49億23百万円減）となりました。

負債の部は、利益の減少に伴って未払法人税等が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ93億86百万円減の552億82百万円となりました。

純資産の部につきましては、当期純利益の計上によって利益剰余金が増加し、前連結会計年度末に比べ90億円増の1,431億93百万円となりました。

この結果、1株当たり純資産額は1,059.98円（前連結会計年度末は1,000.33円）となり、自己資本比率は72.1%（前連結会計年度末は68.0%）となりました。

当社グループの資金状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローで得られた資金は、376億44百万円（対前期比45.3%増）となり、運転資金および投資活動等の資金需要に見合う必要十分な額の資金を生み出すことができました。前連結会計年度との差額の主な要因は、税金等調整前当期純利益の減少などの減少要因があった一方、減価償却費の増加および売上債権の減少などの増加要因によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、242億59百万円（対前期比35.1%減）の資金を使用しました。設備投資の主な内容は、I Cパッケージ部門において新製品の開発・量産体制整備を行ったほか、全部門にわたって合理化・省力化を目的とした投資を行ったものです。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、36億22百万円（対前期比35.4%減）の資金を使用しました。主に、配当金の支払に使用したものです。

これらの活動の結果に為替換算差額を加味した当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末の329億90百万円から88億94百万円増加し、418億85百万円となりました。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、キャッシュ・フローを重視し、常に利益を創出できる強固な経営基盤の確立に努め、かつコーポレート・ガバナンスの充実をはかるとともに、以下の項目に重点をおいた経営戦略を展開してまいります。

① 徹底した現場主義に基づく「ものづくり」の革新

お客様の望まれる品質・納期に対応し、適正な価格でご提供するという製造業の原点に立ち、徹底した現場主義をもって製品の開発、設計から生産、出荷にいたる「ものづくり」のすべての段階において革新し続けることによって、競争力の向上に努め、収益を確保してまいります。

② 変化に即応できる企業体質の構築

市場環境の変化が激しく、熾烈な競争が繰り返される半導体産業にあつて、変化に即応できる企業体質の構築こそが企業存続・発展の条件ととらえ、全部門において一層の合理化・生産性の向上に努めるとともに、会社創業以来培ってまいりました技術力をもとに、お客様のニーズに速やかに対応し、明確に差別化された製品の開発・量産化を進め、企業体質の強化をはかってまいります。

③ 周辺環境との調和

市場において必要とされる企業であることはもとより、株主の皆様のご期待に応え、お取引先や従業員、地域社会など企業を取り巻く方々との関係を重視し、また、地球環境と企業活動の調和を基本理念として、社会において必要とされる企業であり続けるべく事業を展開してまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は、当連結会計年度において総額219億30百万円の設備投資を実施いたしました。これは、ICパッケージ部門において新製品の開発、量産体制整備のための設備投資136億6百万円を行ったほか、全部門にわたって合理化・省力化を目的とした投資を行ったものです。

なお、当連結会計年度中に生産能力に重要な影響を及ぼす設備の売却、撤去等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループの当連結会計年度末現在における主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	部門	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具器具 及び備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	合計 (百万円)	
本社更北工場 (長野県長野市)	ICパッケージ 気密部品	PLP製造設備 ガラス端子製 造設備	3,124	8,614	780	519 82,644.22 (39,113.77)	13,039	1,097
若穂工場 (長野県長野市)	ICパッケージ	PLP製造設備	5,410	7,865	133	349 55,595.56 (38,331.51)	13,758	377
高丘工場 (長野県中野市)	ICリードフレ ーム ICパッケージ 気密部品	リードフレ ーム製造設備 PLP製造設備 ガラス端子製 造設備	5,251	6,631	1,195	2,109 100,218.63 (5,519.00)	15,187	1,060
新井工場 (新潟県妙高市)	ICリードフレ ーム ICパッケージ	リードフレ ーム製造設備 IC組立設備 PLP製造設備	3,956	7,644	816	1,149 122,143.37 (76.72)	13,566	1,035
新光開発センター (長野県長野市)	研究開発	応用研究設備	586	3,202	174	0 0.00	3,962	216

(注) 土地の面積の()内は、他よりの賃借分で、内数であります。

(2) 在外子会社

会社名	所在地	部門	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具器具 及び備品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	合計 (百万円)	
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア	ICリードフ レーム	リードフレ ーム製造設 備	477	313	404	238 44,199.00	1,433	469

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定にあたっては当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における設備投資計画の状況は次のとおりであります。

内容	目的	予算金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着工年月	完成予定年月
(生産設備)					
I Cリードフレーム	増産および合理化	7,100	0	平成20年4月	平成22年3月
I Cパッケージ	〃	37,600	0	平成20年4月	平成22年3月
気密部品	〃	3,500	0	平成20年4月	平成22年3月
その他	新製品開発	2,300	0	平成20年4月	平成22年3月
(その他)					
当社 若穂工場建屋	増産	3,400	0	平成20年4月	平成20年11月
合計	——	53,900	0	——	——

(注) 1. 上記設備計画における今後の所要資金53,900百万円は、自己資金により充当し、不足分については銀行借入により充当する予定であります。

2. 本計画達成後には、現有生産能力が約25%増加する見込みであります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	540,000,000
計	540,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成20年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成20年6月30日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	135,171,942	135,171,942	東京証券取引所 (市場第一部)	——
計	135,171,942	135,171,942	——	——

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成17年8月2日 (注)1	0	45,057	0	24,223	△18,094	6,055
平成18年4月1日 (注)2	90,114	135,171	0	24,223	0	6,055

- (注) 1. 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。
2. 平成18年3月8日開催の取締役会の決議により、平成18年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主の所有株式数を、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で分割いたしました。これにより発行済株式の総数は、90,114,628株増加し、135,171,942株となりました。

(5)【所有者別状況】

平成20年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府および 地方公共団 体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	69	44	93	254	2	11,542	12,004	——
所有株式数 (単元)	0	319,589	15,690	690,632	237,127	29	88,583	1,351,650	6,942
所有株式数の 割合(%)	0	23.64	1.16	51.09	17.55	-	6.56	100.00	——

- (注) 1. 自己株式80,852株は、「個人その他」に808単元および「単元未満株式の状況」に52株を含めて記載しております。
2. 「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が9単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成20年3月31日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号	67,587	50.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	7,478	5.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	7,265	5.38
指定単受託者中央三井アセット信託銀行株式会社1口	東京都港区芝三丁目23番1号	2,213	1.64
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託Y口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	2,032	1.50
株式会社八十二銀行	長野県長野市中御所字岡田178番地8	1,836	1.36
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町二丁目7番9号	1,336	0.99
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町二丁目6番1号	1,239	0.92
シージーエムエル・アイピービー・トウキョウ・クライエント・セキュリティーズ・アカウント (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON (東京都品川区東品川二丁目3番14号)	1,102	0.82
ユニオン・バンケ・プリベ・ルクセンブルグ・エスエー 497200 (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	18, BOULEVARD ROYAL LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内一丁目3番2号)	1,100	0.81
計	——	93,190	68.94

(注) 金融商品取引法の「株券等の大量保有の状況に関する開示」制度に基づき、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、平成19年5月21日付で提出された大量保有報告書の写しにより平成19年5月14日現在で3,772千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合 2.79%)を下記のとおり保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式の 割合 (%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,756	1.30
三菱UFJ証券株式会社	201	0.15
三菱UFJ投信株式会社	867	0.64
エム・ユー投資顧問株式会社	947	0.70
計	3,772	2.79

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成20年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	——	——	——
議決権制限株式 (自己株式等)	——	——	——
議決権制限株式 (その他)	——	——	——
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 80,800	——	——
完全議決権株式 (その他)	普通株式 135,084,200	1,350,842	——
単元未満株式	普通株式 6,942	——	——
発行済株式総数	135,171,942	——	——
総株主の議決権	——	1,350,842	——

(注) 「完全議決権株式 (その他)」には、証券保管振替機構名義の株式が900株 (議決権の数9個) 含まれております。

② 【自己株式等】

平成20年3月31日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
新光電気工業株式会社	長野県長野市小島田町80番地	80,800	0	80,800	0.06
計	——	80,800	0	80,800	0.06

(8) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	366	783,363
当期間における取得自己株式	9	13,824

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成20年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況および保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	0	0	0	0
消却の処分を行った取得自己株式	0	0	0	0
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
保有自己株式数	80,852	—	80,861	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成20年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取および売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

配当政策につきましては、株主の皆様への利益還元を充実させていくことを経営の最重要施策の一つと考えており、半導体業界の急速な技術革新に対応した設備投資や研究開発投資を通じた強固な企業基盤の確立と将来の事業展開に備えるため、内部留保の充実も考慮し、財政状態、利益水準および配当性向などを総合的に勘案した利益配当を行うことを基本方針としております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であり、会社法第454条第5項の規定に基づき取締役会の決議をもって中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり年間27円（中間配当金9円、期末配当金18円）の配当を実施いたしました。この結果、当事業年度の配当性向は30.6%となります。

当事業年度の内部留保資金につきましては、引き続き市場の変化に対応した新技術・新製品の開発に対する資金需要に備えるほか、将来の事業展開に効率的に投資してまいり所存であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成19年10月25日 取締役会決議	1,215	9
平成20年6月27日 定時株主総会決議	2,431	18

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月
最高(円)	3,440	3,780	10,260 ※3,650	3,620	3,030
最低(円)	1,720	2,515	3,490 ※3,190	2,535	1,067

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

2. ※印は、株式分割による権利落ち後の最高・最低株価を示しております。

なお、第71期は、平成18年3月8日開催の取締役会の決議により、平成18年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主の所有株式数を、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で分割いたしました。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成19年10月	11月	12月	平成20年1月	2月	3月
最高(円)	2,940	2,785	2,570	2,200	1,781	1,450
最低(円)	2,490	2,145	2,160	1,540	1,453	1,067

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	執行役員社長	黒岩 護	昭和17年2月12日生	昭和36年4月 富士通信機製造株式会社（現 富士通株式会社）入社 昭和56年10月 当社入社 昭和63年12月 事務統轄部長代理 平成元年6月 取締役 平成4年6月 常務取締役 平成7年6月 専務取締役 平成16年6月 代表取締役社長（現在に至る） 平成19年4月 執行役員社長（現在に至る）	(注) 2	9
取締役	専務執行役員 営業部門担当	倉石 文夫	昭和29年9月16日生	昭和54年4月 当社入社 平成9年6月 P L P 事業部長 平成10年6月 取締役 平成13年9月 常務取締役 平成14年4月 専務取締役 平成16年6月 韓国新光商社株式会社代表理事 社長（現在に至る） 平成19年4月 当社取締役（現在に至る） 専務執行役員（現在に至る）	(注) 2	7
取締役	専務執行役員 社長室・広報 I R・資材調達・各 工場部門担当、 事務統括部長	藤本 明	昭和22年8月12日生	昭和46年4月 富士通株式会社入社 平成10年6月 当社入社 事務統轄部長 兼 環境管理統 轄部長 平成11年6月 取締役 平成12年6月 事務統括部長（現在に至る） 新光テクノサーブ株式会社代表 取締役社長（現在に至る） 平成16年6月 当社常務取締役 平成18年6月 専務取締役 平成19年4月 取締役（現在に至る） 専務執行役員（現在に至る）	(注) 2	2
取締役	常務執行役員 環境管理統括部 長 兼 信頼性統括 部長	柳原 文雄	昭和23年11月1日生	昭和48年4月 富士通株式会社入社 平成17年6月 同社電子デバイス事業本部長代 理 平成18年6月 当社常務取締役 環境管理統括部長 （現在に至る） 平成19年4月 取締役（現在に至る） 常務執行役員（現在に至る） 平成19年6月 信頼性統括部長（現在に至る）	(注) 2	-
取締役	常務執行役員 事業部門・設備技 術担当、 リードフレーム事 業部長	村田 明彦	昭和31年10月28日生	昭和54年4月 当社入社 平成11年6月 リードフレーム事業部長 平成12年6月 取締役（現在に至る） 平成18年6月 リードフレーム事業部長 （現在に至る） 新光電気工業（無錫）有限公司 董事長（現在に至る） 平成19年4月 当社常務執行役員 （現在に至る）	(注) 2	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		横山 和司	昭和22年6月6日生	昭和42年10月 当社入社 平成10年12月 監査部長 平成15年6月 常勤監査役（現在に至る）	(注) 3	2
監査役		村嶋 純一	昭和25年2月2日生	昭和48年4月 富士通株式会社入社 平成15年9月 同社プロダクト事業推進本部長 平成16年6月 同社経営執行役 当社監査役（現在に至る） 平成18年6月 富士通株式会社経営執行役常務 同社プロダクトビジネスサポ ートグループ長（現在に至る） 平成20年6月 同社経営執行役上席常務 （現在に至る）	(注) 4	0
監査役		石坂 宏一	昭和26年12月10日生	昭和51年4月 富士通株式会社入社 平成17年6月 同社電子デバイス事業本部副本 部長 平成18年6月 同社経営執行役 当社監査役（現在に至る） 平成20年3月 富士通マイクロエレクトロニク ス株式会社常務取締役 （現在に至る）	(注) 5	0
計						24

- (注) 1. 監査役村嶋 純一、石坂 宏一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成19年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
3. 平成19年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成20年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成18年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社は、取締役会の意思決定の迅速化と監督機能の強化ならびに権限・責任の明確化による機動的な業務執行体制を構築することを目的として、平成19年4月21日付をもって執行役員制度を導入いたしました。取締役を兼務しない執行役員は以下のとおりであります。
- 常務執行役員 小川 喜彦
- 常務執行役員 今井 邦彦
- 上席執行役員 井口 和治
- 上席執行役員 三井 精造
- 上席執行役員 浅野 義博
- 上席執行役員 荻原 俊彦
- 執行役員 清野 貴博
- 執行役員 長谷部 浩
- 執行役員 菊地 貴人
- 執行役員 会津 治雄
- 執行役員 清水 満晴
- 執行役員 反町 東夫
- 執行役員 依田 稔久
- 執行役員 小平 正司
- 執行役員 大日方政史

6【コーポレート・ガバナンスの状況】

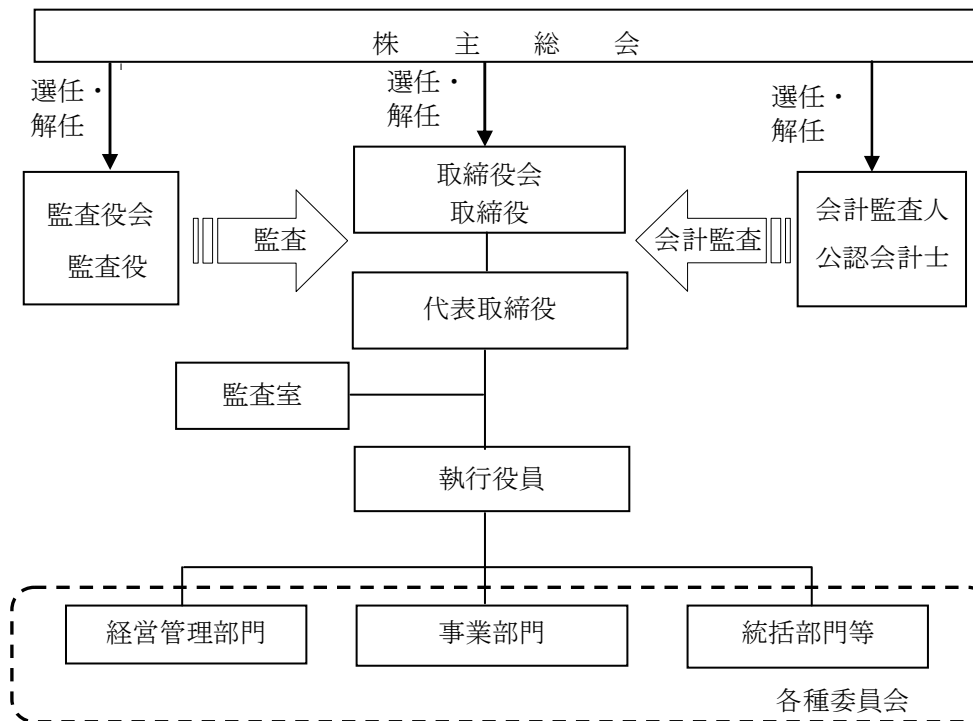
＜コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方＞

環境変化の激しい半導体市場にあって、当社は、経営の透明性を確保し、また変化に迅速に対応して意思決定が適正かつ速やかになされるべく、必要な施策を講じるとともに、コンプライアンスを最重要視し、企業価値の向上、発展を目指してまいります。

(1) 会社の機関の内容

当社の取締役会は、基本方針、法令・定款で定められた事項ならびに経営に関する重要事項の決定および執行状況を監督する機関として、定時取締役会を原則として毎月1回開催し、必要に応じて、随時、臨時取締役会を開催しております。また、取締役および執行役員をもって構成する執行役員会議を毎月開催し、各部門およびグループ会社の状況報告をはじめとして、経営全般に関する審議、報告を行っております。この他、損益、営業、生産、開発等の状況につきまして、担当取締役および執行役員等をもって構成する会議を定期的かつ必要に応じて随時開催することなどにより、速やかな状況把握のもと対応等の検討を行い、経営判断に反映させるなど、環境変化の激しい半導体市場に柔軟かつ迅速に対応できる体制を整えております。

当社は監査役制度を採用しており、監査役は、取締役会、執行役員会議および主要な会議への出席ならびに取締役等からの事業報告などを通じ、取締役の職務執行の監査を実施しております。社外監査役（2名）につきましては、親会社である富士通株式会社および親会社の子会社である富士通マイクロエレクトロニクス株式会社より招聘しております。



(2) 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

当社は、内部監査部門として監査室（専任2名）を設置し、法令および諸規程に基づき監査を実施するとともに、経営管理部門による各種統制等の部門間の牽制が効果的に運用されるべく内部統制システムの充実をはかっております。さらに、会社を取り巻くリスクを適切に管理・統制すべく経営管理部門においてリスク管理を統括するとともに、コンプライアンス、品質、環境などに関わるリスクについては経営管理部門ならびに統括部門において、事業部門と連携してリスクの予防、回避、管理の各対策を講じております。また、各部門における所管事項を補完すべく、安全・衛生、環境対策、輸出管理等について全社横断的な委員会組織を設け、関連規程・マニュアル等を全社的に整備するなど、当社を取り巻くさまざまな危険要因に対応すべく必要な体制を整えております。

また、企業の社会的責任を認識し、より一層信頼される企業を目指すべく、企業倫理に基づく行動のガイドラインとして「私たちの行動指針」を定め、全社員に対し、当社企業理念に基づく事業活動の推進や業務遂行における法令遵守ならびに高い倫理観に基づく行動の徹底をはかっております。加えて、今後とも経営の透明性を高めるため、迅速かつ正確な情報開示に努めてまいります。

会計監査人には新日本監査法人を選任し、年度決算ならびに中間決算を中心に会計監査を受けております。なお、業務を執行した公認会計士の氏名等および監査業務に係る補助者の構成は次のとおりであります。

①業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人および継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定社員 業務執行社員	太田 周二	新日本監査法人	—
	角田 伸理之		—
	堀越 喜臣		—

②監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名 会計士補等10名 その他 1名

(3) 役員報酬の内容

当事業年度における取締役および監査役の報酬等の額は、取締役に対し250百万円、監査役に対し19百万円（うち社外監査役1百万円）であります。報酬等の額には、役員賞与を含めております。なお、取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人給与（賞与を含む）8百万円は含まれておりません。

(4) 監査報酬の内容

会計監査人には新日本監査法人を選任し、年度決算ならびに中間決算を中心に会計監査を受けております。

①公認会計士法第2条第1項に規定する業務に基づく報酬は、31百万円であります。

②上記以外の業務に基づく報酬は、8百万円であります。

(5) 取締役の定員および選任の決議要件

当社の取締役は8名以内とする旨を定款に定めております。また、株主総会における取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

(6) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に行うことを目的とするものであります。

(7) 株主総会決議事項のうち取締役会で決議することができる事項

①自己の株式の取得に関する要件

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の実施を可能とすることを目的とするものであります。

②中間配当

当社は、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

③取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役および監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

前連結会計年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）については、「企業内容等の開示に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」（平成19年8月15日内閣府令第65号）附則第10条第2項第2号ただし書きにより、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

第72期事業年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第73期事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

なお、第73期事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）については、「企業内容等の開示に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」（平成19年8月15日内閣府令第65号）附則第9条第2項第2号ただし書きにより、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前連結会計年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の連結財務諸表および第72期事業年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）の財務諸表について、ならびに、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の連結財務諸表および第73期事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の財務諸表について、新日本監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成19年3月31日)		当連結会計年度 (平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金		20,626		20,754	
2. 受取手形及び売掛金		68,252		66,252	
3. 有価証券				1,122	
4. たな卸資産		9,419		8,414	
5. 預け金		13,620		20,940	
6. 繰延税金資産		2,739		2,167	
7. その他	※3	2,193		1,734	
8. 貸倒引当金		△19		△16	
流動資産合計		116,832	58.8	121,369	61.2
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物	※2.4	21,182		20,477	
(2) 機械装置及び運搬具	※2	37,582		35,242	
(3) 工具器具及び備品	※2	4,143		4,062	
(4) 土地		6,437		6,418	
(5) 建設仮勘定		5,696		5,330	
有形固定資産合計		75,042	37.7	71,530	36.0
2. 無形固定資産		1,736	0.9	1,547	0.8
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	※1	953		357	
(2) 繰延税金資産		3,036		1,957	
(3) その他		1,286		1,735	
(4) 貸倒引当金		△26		△21	
投資その他の資産合計		5,250	2.6	4,027	2.0
固定資産合計		82,029	41.2	77,106	38.8
資産合計		198,862	100.0	198,475	100.0

区分	注記 番号	前連結会計年度 (平成19年3月31日)		当連結会計年度 (平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金		30,576		33,281	
2. 短期借入金		1,500		1,000	
3. 未払金		9,544		6,581	
4. 未払法人税等		8,081		1,045	
5. 未払費用		8,903		8,241	
6. その他		734		808	
流動負債合計		59,340	29.8	50,958	25.7
II 固定負債					
1. 長期借入金		980		0	
2. 退職給付引当金		3,790		3,750	
3. 役員退職慰労引当金		556		0	
4. その他				573	
固定負債合計		5,328	2.7	4,323	2.2
負債合計		64,668	32.5	55,282	27.9
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金		24,223	12.2	24,223	12.2
2. 資本剰余金		24,129	12.1	24,129	12.1
3. 利益剰余金		87,955	44.2	96,455	48.6
4. 自己株式		△90	—	△91	—
株主資本合計		136,217	68.5	144,716	72.9
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金		446	0.3	150	0.1
2. 繰延ヘッジ損益		5	—	0	0.0
3. 為替換算調整勘定		△1,532	△0.8	△1,673	△0.9
評価・換算差額等合計		△1,081	△0.5	△1,523	△0.8
III 少数株主持分					
少数株主持分		△942	△0.5	0	0.0
純資産合計		134,193	67.5	143,193	72.1
負債純資産合計		198,862	100.0	198,475	100.0

②【連結損益計算書】

区分	注記 番号	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			205,859	100.0	215,007	100.0	
II 売上原価			155,708	75.6	175,135	81.5	
売上総利益			50,150	24.4	39,871	18.5	
III 販売費及び一般管理費	※1.2		14,824	7.2	14,744	6.8	
営業利益			35,326	17.2	25,126	11.7	
IV 営業外収益							
1. 受取利息		545			751		
2. 技術料		225			251		
3. 国庫補助金等受贈益					300		
4. 雑収入		712	1,483	0.6	693	1,996	0.9
V 営業外費用							
1. 支払利息		7			9		
2. 退職給付積立不足償却額		530			530		
3. 為替差損		801			4,850		
4. 雑支出		583	1,922	0.9	682	6,073	2.8
經常利益			34,887	16.9	21,050	9.8	
VI 特別利益							
1. 債務免除益					932	932	0.4
VII 特別損失							
1. 固定資産除却損	※3	1,446			751		
2. 子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損					912		
3. 減損損失	※4	780	2,226	1.1	0	1,664	0.7
税金等調整前当期純利益			32,660	15.8	20,317	9.5	
法人税、住民税及び事業税		13,006			6,202		
法人税等調整額		341	13,347	6.5	1,846	8,048	3.8
少数株主利益			87	—	932	0.4	
当期純利益			19,225	9.3	11,336	5.3	

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年3月31日 残高 (百万円)	24,223	24,131	70,506	△151	118,709
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当(注)			△855		△855
剰余金の配当			△810		△810
役員賞与(注)			△110		△110
当期純利益			19,225		19,225
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分		△2		62	60
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	0	△2	17,449	60	17,508
平成19年3月31日 残高 (百万円)	24,223	24,129	87,955	△90	136,217

	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計		
平成18年3月31日 残高 (百万円)	409		△1,830	△1,420	△935	116,353
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当(注)						△855
剰余金の配当						△810
役員賞与(注)						△110
当期純利益						19,225
自己株式の取得						△1
自己株式の処分						60
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額（純額）	36	5	297	339	△7	331
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	36	5	297	339	△7	17,839
平成19年3月31日 残高 (百万円)	446	5	△1,532	△1,081	△942	134,193

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

当連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高 (百万円)	24,223	24,129	87,955	△90	136,217
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△2,836		△2,836
当期純利益			11,336		11,336
自己株式の取得				—	—
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	0	0	8,499	—	8,499
平成20年3月31日 残高 (百万円)	24,223	24,129	96,455	△91	144,716

	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計		
平成19年3月31日 残高 (百万円)	446	5	△1,532	△1,081	△942	134,193
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△2,836
当期純利益						11,336
自己株式の取得						—
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額（純額）	△296	△5	△140	△442	942	500
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	△296	△5	△140	△442	942	9,000
平成20年3月31日 残高 (百万円)	150	0	△1,673	△1,523	0	143,193

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

		前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		32,660	20,317
減価償却費		19,026	24,539
退職給付引当金の減少額		△837	△543
受取利息及び受取配当金		△550	△757
支払利息		7	9
為替差益		△7	
為替差損			100
有形固定資産除却損		1,083	552
減損損失		780	0
売上債権の増減額		△21,300	881
たな卸資産の増減額		△996	891
仕入債務の増加額		7,034	4,121
未払費用の増減額		1,303	△602
役員賞与の支払額		△110	0
その他		79	497
小計		38,173	50,008
利息及び配当金の受取額		547	753
利息の支払額		△7	△9
法人税等の支払額		△12,803	△13,107
営業活動によるキャッシュ・フロー		25,909	37,644

		前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		△1,534	△1,054
定期預金の払戻による収入		1,366	1,261
有形固定資産の取得による支出		△36,791	△24,107
無形固定資産の取得による支出		△554	△369
投資および長期貸付金の増加額		△94	△187
その他		206	199
投資活動によるキャッシュ・フロー		△37,400	△24,259
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額		1,300	△500
長期借入金の返済による支出		△5,300	△30
配当金の支払額		△1,665	△2,836
自己株式の取得による支出		△1	—
自己株式の売却による収入		60	0
その他			△253
財務活動によるキャッシュ・フロー		△5,607	△3,622
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		217	△868
V 現金及び現金同等物の増減額		△16,881	8,894
VI 現金及び現金同等物の期首残高		49,872	32,990
VII 現金及び現金同等物の期末残高		32,990	41,885

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 10社 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりです。</p> <p>(2) 非連結子会社の名称等 非連結子会社 1社 SHINKO MICROELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD. (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を与えていないためであります。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 9社 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりです。 なお、前連結会計年度において連結子会社でありました SHINKO MICROELECTRONICS IRELAND LIMITED は清算終了のため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>(2) 同左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>持分法を適用していない非連結子会社は、連結純損益および利益剰余金等を与える影響が軽微であり重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。 なお、当社は、関連会社を有しておりません。</p>	<p>同左</p>
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社の決算日 12月末 1社 3月末 9社</p> <p>12月末日決算会社は、12月末決算により連結しております。 連結決算日の不一致による差異に重要なものがある場合には連結上調整を行うこととしております。</p>	<p>連結子会社の決算日 12月末 1社 3月末 8社</p> <p>12月末日決算会社は、12月末決算により連結しております。 連結決算日の不一致による差異に重要なものがある場合には連結上調整を行うこととしております。</p>
4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準および評価方法	<p>①有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>②デリバティブ 時価法</p>	<p>① 同左</p> <p>② 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)								
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法	<p>③たな卸資産 総平均法および先入先出法による原価法であります。</p> <p>①有形固定資産 主に定率法によっております。ただし、当社および国内連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）について、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table data-bbox="528 1131 948 1203"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>10～38年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>5～12年</td> </tr> </table>	建物及び構築物	10～38年	機械装置及び運搬具	5～12年	<p>③たな卸資産 総平均法および先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）であります。</p> <p>（会計方針の変更） 「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が平成20年3月31日以前に開始する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度より同会計基準を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は軽微であります。</p> <p>①有形固定資産（リース資産を除く） 主に定率法によっております。ただし、当社および国内連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）について、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table data-bbox="1007 1131 1426 1203"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>10～38年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>5～12年</td> </tr> </table> <p>（会計方針の変更） 当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益がそれぞれ1,566百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	建物及び構築物	10～38年	機械装置及び運搬具	5～12年
建物及び構築物	10～38年									
機械装置及び運搬具	5～12年									
建物及び構築物	10～38年									
機械装置及び運搬具	5～12年									

項目	前連結会計年度 (自 平成18年 4月 1日 至 平成19年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>②無形固定資産 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>③ _____</p> <p>①貸倒引当金 売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(追加情報)</p> <p>当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。これにより営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益がそれぞれ853百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>② 同左</p> <p>③リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成19年4月1日以後開始する連結会計年度から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度より同会計基準および同適用指針を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>① 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
	<p>②退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、会計基準変更時差異については、10年による按分額、また、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を費用処理しております。</p> <p>また、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>③役員退職慰労引当金</p> <p>当社および一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づき連結会計年度末要支給額を計上しております。</p> <p>④役員賞与引当金</p> <p>当社は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>当連結会計年度より、「役員賞与に関する会計基準」（企業会計基準第4号平成17年11月29日）を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、軽微であります。</p>	<p>② 同左</p> <p>③役員退職慰労引当金</p> <p>_____</p> <p>（追加情報）</p> <p>従来、役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を役員退職慰労引当金として計上しておりましたが、第72回定時株主総会（平成19年6月28日開催）において、役員退職慰労金制度の廃止を決議いたしました。</p> <p>④役員賞与引当金</p> <p>当社は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)								
(4) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>なお、在外子会社の資産、負債、収益および費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および少数株主持分に含めております。</p>	<p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>なお、在外子会社の資産、負債、収益および費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。</p>								
(5) 重要なリース取引の処理方法	<p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>同左</p>								
(6) 重要なヘッジ会計の方法	<p>①ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <table border="0" data-bbox="528 773 948 912"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>ヘッジ手段</u></td> <td style="text-align: center;"><u>ヘッジ対象</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">為替予約取引</td> <td style="text-align: center;">外貨建予定取引</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">通貨オプション</td> <td style="text-align: center;">外貨建予定取引</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">取引</td> <td style="text-align: center;">取引</td> </tr> </table> <p>③ヘッジ方針</p> <p>当社グループは、将来の為替の相場変動に伴うリスクの軽減を図る目的で、デリバティブ取引に関する管理規定を定めており、その規定に基づきヘッジの有効性を判定し、デリバティブ取引を行っております。</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較勘案し、有効性を評価しております。</p>	<u>ヘッジ手段</u>	<u>ヘッジ対象</u>	為替予約取引	外貨建予定取引	通貨オプション	外貨建予定取引	取引	取引	<p>① 同左</p> <p>② 同左</p> <p>③ 同左</p> <p>④ 同左</p>
<u>ヘッジ手段</u>	<u>ヘッジ対象</u>									
為替予約取引	外貨建予定取引									
通貨オプション	外貨建予定取引									
取引	取引									
(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 税抜方式を採用しております。</p>	<p>同左</p>								
5. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金および現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>同左</p>								

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準) 当連結会計年度より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)および「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。 これまでの資本の部の合計に相当する金額は135,131百万円であります。 なお、当連結会計年度における連結貸借対照表の純資産の部については、連結財務諸表規則の改正に伴い、改正後の連結財務諸表規則により作成しております。</p>	<p>—————</p>

表示方法の変更

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
<p>—————</p>	<p>(連結貸借対照表) 前連結会計年度末において「現金及び預金」に含めて表示しておりました国内譲渡性預金は、当連結会計年度末より改正後の連結財務諸表規則に基づき、「有価証券」として表示しております。 なお、国内譲渡性預金の金額は、前連結会計年度末が4,870百万円、当連結会計年度末が1,030百万円であります。</p>

注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成19年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年3月31日)
<p>※1. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 5百万円</p> <p>※2. 有形固定資産の減価償却累計額 168,050百万円</p> <p>※3. 消費税等 未収消費税等は流動資産の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>※4. —————</p>	<p>※1. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 5百万円</p> <p>※2. 有形固定資産の減価償却累計額 184,626百万円</p> <p>※3. 同左</p> <p>※4. 国庫補助金等の受入れにより、取得価額から直接控除した圧縮記帳額は358百万円であります。</p>

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)																																		
<p>※1. 販売費及び一般管理費 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">荷造費・運賃・保管料</td> <td style="text-align: right;">1,708百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">2,662百万円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">3,975百万円</td> </tr> </table> <p>※2. 研究開発費の総額 3,975百万円</p> <p>※3. 固定資産除却損 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">291百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">512百万円</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">262百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">379百万円</td> </tr> </table> <p>※4. 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">場所</th> <th style="width: 45%;">用途</th> <th style="width: 30%;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">新潟県阿賀野市</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、原則として、事業用資産については管理会計上の事業区分等を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。</p> <p>当連結会計年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（780百万円）として特別損失に計上しました。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については不動産鑑定評価額により評価しております。</p>	荷造費・運賃・保管料	1,708百万円	従業員給料手当	2,662百万円	研究開発費	3,975百万円	建物及び構築物	291百万円	機械装置及び運搬具	512百万円	工具器具及び備品	262百万円	その他	379百万円	場所	用途	種類	新潟県阿賀野市	遊休資産	土地	<p>※1. 販売費及び一般管理費 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">荷造費・運賃・保管料</td> <td style="text-align: right;">1,828百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">2,672百万円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">4,396百万円</td> </tr> </table> <p>※2. 研究開発費の総額 4,396百万円</p> <p>※3. 固定資産除却損 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">70百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">225百万円</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">66百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">389百万円</td> </tr> </table> <p>※4. _____</p>	荷造費・運賃・保管料	1,828百万円	従業員給料手当	2,672百万円	研究開発費	4,396百万円	建物及び構築物	70百万円	機械装置及び運搬具	225百万円	工具器具及び備品	66百万円	その他	389百万円
荷造費・運賃・保管料	1,708百万円																																		
従業員給料手当	2,662百万円																																		
研究開発費	3,975百万円																																		
建物及び構築物	291百万円																																		
機械装置及び運搬具	512百万円																																		
工具器具及び備品	262百万円																																		
その他	379百万円																																		
場所	用途	種類																																	
新潟県阿賀野市	遊休資産	土地																																	
荷造費・運賃・保管料	1,828百万円																																		
従業員給料手当	2,672百万円																																		
研究開発費	4,396百万円																																		
建物及び構築物	70百万円																																		
機械装置及び運搬具	225百万円																																		
工具器具及び備品	66百万円																																		
その他	389百万円																																		

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数並びに自己株式の種類および株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	45,057,314	90,114,628	0	135,171,942
合計	45,057,314	90,114,628	0	135,171,942
自己株式				
普通株式(注)2	45,553	91,569	56,636	80,486
合計	45,553	91,569	56,636	80,486

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加90,114,628株は、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加91,569株は、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる91,106株の増加および単元未満株式の買取りによる463株の増加であり、減少の56,636株は、ストック・オプション権利行使分56,600株および単元未満株式の売渡し36株によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成18年6月29日 定時株主総会	普通株式	855	19	平成18年3月31日	平成18年6月29日
平成18年10月26日 取締役会	普通株式	810	6	平成18年9月30日	平成18年12月8日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成19年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,621	利益剰余金	12	平成19年3月31日	平成19年6月29日

当連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

1. 発行済株式の種類および総数並びに自己株式の種類および株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	135,171,942	0	0	135,171,942
合計	135,171,942	0	0	135,171,942
自己株式				
普通株式（注）	80,486	366	0	80,852
合計	80,486	366	0	80,852

（注） 普通株式の自己株式の株式数の増加366株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成19年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,621	12	平成19年3月31日	平成19年6月29日
平成19年10月25日 取締役会	普通株式	1,215	9	平成19年9月30日	平成19年12月10日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,431	利益剰余金	18	平成20年3月31日	平成20年6月30日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成19年3月31日現在)	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年3月31日現在)
現金及び預金勘定 20,626百万円	現金及び預金勘定 20,754百万円
預け金勘定 13,620百万円	有価証券勘定 1,122百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 Δ 1,255百万円	預け金勘定 20,940百万円
現金及び現金同等物 <u>32,990百万円</u>	預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 Δ 839百万円
	預入期間が3ヶ月を超える 譲渡性預金 Δ 92百万円
	現金及び現金同等物 <u>41,885百万円</u>

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引				—————
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および連結会計年度末残高相当額				
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	連結会計 年度末 残高相当額 (百万円)	
工具器具及び備品	1,099	697	401	
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料連結会計年度末残高が有形固定資産の連結会計年度末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。				
(2) 未経過リース料連結会計年度末残高相当額等				
未経過リース料連結会計年度末残高相当額				
一年内	222百万円			
一年超	179百万円			
合計	401百万円			
(注) 未経過リース料連結会計年度末残高相当額は、未経過リース料連結会計年度末残高が有形固定資産の連結会計年度末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。				
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失				
支払リース料	227百万円			
減価償却費相当額	227百万円			
(4) 減価償却費相当額の算定方法				
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				
2. オペレーティング・リース取引				
未経過リース料				
一年内	7百万円			
一年超	19百万円			
合計	26百万円			

(有価証券関係)

有価証券

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種類	前連結会計年度（平成19年3月31日）			当連結会計年度（平成20年3月31日）		
		取得原価 （百万円）	連結貸借対照 表計上額 （百万円）	差額 （百万円）	取得原価 （百万円）	連結貸借対照 表計上額 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照 表計上額が取 得原価を超え るもの	(1) 株式	62	810	748	52	305	252
	(2) 債券						
	国債・地方 債	0	0	0	0	0	0
	社債	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	(3) その他	0	0	0	0	0	0
	小計	62	810	748	52	305	252
連結貸借対照 表計上額が取 得原価を超え ないもの	(1) 株式	0	0	0	10	10	－
	(2) 債券						
	国債・地方 債	0	0	0	0	0	0
	社債	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	(3) その他	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	10	10	－
	合計	62	810	748	63	315	251

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度 （自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）			当連結会計年度 （自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）		
売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
			114	14	0

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容

種類	前連結会計年度（平成19年3月31日）	当連結会計年度（平成20年3月31日）
	連結貸借対照表計上額（百万円）	
その他有価証券		
譲渡性預金		1,122
非上場株式	136	36

4. その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額

	前連結会計年度（平成19年3月31日）				当連結会計年度（平成20年3月31日）			
	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）	1年以内 （百万円）	1年超 5年以内 （百万円）	5年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
譲渡性預金					1,122	0	0	0
合計					1,122	0	0	0

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
(1) 取引の内容 当社グループは、為替予約取引および通貨オプション取引を利用しております。	(1) 同左
(2) 取引に対する取組方針 当社グループのデリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。	(2) 同左
(3) 取引の利用目的 当社グループのデリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクを回避する目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 ヘッジ手段・・・為替予約取引、通貨オプション取引 ヘッジ対象・・・外貨建予定取引	(3) 同左
(4) 取引に係るリスクの内容 当社グループが利用している為替予約取引および通貨オプション取引は、為替相場の変動によるリスクを有しております。 なお、当社グループのデリバティブ取引の契約先はいずれも信用度の高い銀行であるため、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。	(4) 同左
(5) 取引に係るリスク管理体制 当社グループのデリバティブ取引については、当社グループの運用ルールに基づき、各社ごとに経理部門が契約の締結を行っております。 各社の経理部門は、一定の範囲の取引限度を超えないように管理しており、取引結果はその都度経営陣に報告しております。	(5) 同左
(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	(6) 同左

2. 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引の契約額等、時価および評価損益
通貨関連

区分	種類	前連結会計年度（平成19年3月31日）				当連結会計年度（平成20年3月31日）			
		契約額等 （百万円）	契約額等 のうち1 年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）	契約額等 （百万円）	契約額等 のうち1 年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引 以外の取 引	為替予約取引								
	売建								
	米ドル	8,067	0	7,986	81	0	0	0	0
	オプション取引								
	売建	(51)		(56)	△4	(21)		(55)	△33
	ドルコール	8,454	0			3,020	0		
買建	(51)		(61)	10	(21)		(12)	△8	
ドルプット	8,454	0			3,020	0			
合計					86				△42

前連結会計年度

当連結会計年度

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引およびオプション取引に係わる期
末の時価は、取引金融機関から提示された価格
等により算出しております。

(注) 1.

同左

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
は除いております。

2.

同左

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社、国内連結子会社および一部の海外連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度および退
職一時金制度等を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 （平成19年3月31日）	当連結会計年度 （平成20年3月31日）
(1) 退職給付債務（百万円）	△34,421	△36,470
(2) 年金資産（百万円）	32,388	29,298
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)（百万円）	△2,032	△7,172
(4) 会計基準変更時差異の未処理額 （百万円）	3,417	2,278
(5) 未認識数理計算上の差異（百万円）	434	6,655
(6) 未認識過去勤務債務（債務の減額） （百万円）	△5,121	△4,513
(7) 連結貸借対照表計上額純額 (3)+(4)+(5)+(6)（百万円）	△3,302	△2,751
(8) 前払年金費用（百万円）	488	998
(9) 退職給付引当金(7)-(8)（百万円）	△3,790	△3,750

前連結会計年度

当連結会計年度

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあた
り、簡便法を採用しております。

(注)

同左

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
(1) 勤務費用 注1 (百万円)	1,362	1,439
(2) 利息費用 (百万円)	797	855
(3) 期待運用収益 (百万円)	△991	△1,043
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額 (百万円)	1,139	1,139
(5) 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円)	△19	34
(6) 過去勤務債務の費用処理額 (百万円)	△608	△608
(7) 退職給付費用 (1) + (2) + (3) + (4) + (5) + (6) (百万円)	1,679	1,815

前連結会計年度

当連結会計年度

- (注) 1. 企業年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。
2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。
3. 上記退職給付費用以外に、割増退職金を44百万円支払っております。

- (注) 1.
- 2.

同左

同左

3. 上記退職給付費用以外に、割増退職金を50百万円支払っております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成19年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年3月31日)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(2) 割引率	2.5%	2.5%
(3) 期待運用収益率	2.5%~3.5%	2.5%~3.5%
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	10年	10年
(5) 数理計算上の差異の処理年数	各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。(17~20年)	各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。(17~20年)
(6) 会計基準変更時差異の処理年数	10年	10年

(ストック・オプション等関係)
 前連結会計年度(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
 スtock・オプションの内容、規模およびその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成13年 ストック・オプション
付与対象者の区分および人数	取締役13名 当社の規程に定める課長職以上の役職者366名
ストック・オプション数(注)	普通株式289,300株
付与日	平成13年8月1日
権利確定条件	権利確定条件は定めておりません。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めておりません。
権利行使期間	平成13年8月1日から平成18年6月30日まで

(注) 上記表に記載された株式数は、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模およびその変動状況

当連結会計年度(平成19年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① スtock・オプションの数

	平成13年 ストック・オプション
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	44,100
権利確定	132,300
権利行使	56,600
失効	75,700
未行使残	0

(注) 上記表に記載された株式数は、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる分割後の株式数に換算して記載しております。

② 単価情報

	平成13年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1,060
行使時平均株価 (円)	3,109

(注) 権利行使価格については、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる分割後の権利行使価格に換算して記載しております。

当連結会計年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
 該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成19年3月31日)	当連結会計年度 (平成20年3月31日)																																																																												
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">1,849百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,328百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">780百万円</td></tr> <tr><td>子会社への投資に係る将来減算一時差異</td><td style="text-align: right;">751百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">601百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">224百万円</td></tr> <tr><td>未払賞与に係る社会保険料</td><td style="text-align: right;">189百万円</td></tr> <tr><td>一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1,111百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">6,918百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△780百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">6,138百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td> その他有価証券評価差額</td><td style="text-align: right;">△215百万円</td></tr> <tr><td> 特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△106百万円</td></tr> <tr><td> 固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">△32百万円</td></tr> <tr><td> その他</td><td style="text-align: right;">△7百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">△361百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">5,776百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">2,739百万円</td></tr> <tr><td>固定資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">3,036百万円</td></tr> </table> <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の5/100以下のため、注記を省略しております。</p>	未払賞与	1,849百万円	退職給付引当金	1,328百万円	減損損失	780百万円	子会社への投資に係る将来減算一時差異	751百万円	未払事業税	601百万円	役員退職慰労引当金	224百万円	未払賞与に係る社会保険料	189百万円	一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	80百万円	その他	1,111百万円	繰延税金資産小計	6,918百万円	評価性引当額	△780百万円	繰延税金資産計	6,138百万円	繰延税金負債		その他有価証券評価差額	△215百万円	特別償却準備金	△106百万円	固定資産圧縮積立金	△32百万円	その他	△7百万円	繰延税金負債計	△361百万円	繰延税金資産の純額	5,776百万円	流動資産－繰延税金資産	2,739百万円	固定資産－繰延税金資産	3,036百万円	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">1,774百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,094百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">315百万円</td></tr> <tr><td>未払賞与に係る社会保険料</td><td style="text-align: right;">191百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">131百万円</td></tr> <tr><td>一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">81百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">967百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">4,556百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△344百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">4,211百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td> 特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△72百万円</td></tr> <tr><td> その他有価証券評価差額</td><td style="text-align: right;">△14百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">△86百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">4,124百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">2,167百万円</td></tr> <tr><td>固定資産－繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,957百万円</td></tr> </table> <p>2. 同左</p>	未払賞与	1,774百万円	退職給付引当金	1,094百万円	減損損失	315百万円	未払賞与に係る社会保険料	191百万円	未払事業税	131百万円	一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	81百万円	その他	967百万円	繰延税金資産小計	4,556百万円	評価性引当額	△344百万円	繰延税金資産計	4,211百万円	繰延税金負債		特別償却準備金	△72百万円	その他有価証券評価差額	△14百万円	繰延税金負債計	△86百万円	繰延税金資産の純額	4,124百万円	流動資産－繰延税金資産	2,167百万円	固定資産－繰延税金資産	1,957百万円
未払賞与	1,849百万円																																																																												
退職給付引当金	1,328百万円																																																																												
減損損失	780百万円																																																																												
子会社への投資に係る将来減算一時差異	751百万円																																																																												
未払事業税	601百万円																																																																												
役員退職慰労引当金	224百万円																																																																												
未払賞与に係る社会保険料	189百万円																																																																												
一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	80百万円																																																																												
その他	1,111百万円																																																																												
繰延税金資産小計	6,918百万円																																																																												
評価性引当額	△780百万円																																																																												
繰延税金資産計	6,138百万円																																																																												
繰延税金負債																																																																													
その他有価証券評価差額	△215百万円																																																																												
特別償却準備金	△106百万円																																																																												
固定資産圧縮積立金	△32百万円																																																																												
その他	△7百万円																																																																												
繰延税金負債計	△361百万円																																																																												
繰延税金資産の純額	5,776百万円																																																																												
流動資産－繰延税金資産	2,739百万円																																																																												
固定資産－繰延税金資産	3,036百万円																																																																												
未払賞与	1,774百万円																																																																												
退職給付引当金	1,094百万円																																																																												
減損損失	315百万円																																																																												
未払賞与に係る社会保険料	191百万円																																																																												
未払事業税	131百万円																																																																												
一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	81百万円																																																																												
その他	967百万円																																																																												
繰延税金資産小計	4,556百万円																																																																												
評価性引当額	△344百万円																																																																												
繰延税金資産計	4,211百万円																																																																												
繰延税金負債																																																																													
特別償却準備金	△72百万円																																																																												
その他有価証券評価差額	△14百万円																																																																												
繰延税金負債計	△86百万円																																																																												
繰延税金資産の純額	4,124百万円																																																																												
流動資産－繰延税金資産	2,167百万円																																																																												
固定資産－繰延税金資産	1,957百万円																																																																												

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度および当連結会計年度において、当社グループは、電子・通信機器部品の製造・販売のみを行っている単一セグメントに該当いたしますので、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

最近2連結会計年度における所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	アメリカ (百万円)	計 (百万円)	消去または 全社 (百万円)	連結 (百万円)
I. 売上高および営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	164,062	16,917	24,880	205,859		205,859
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	36,080	1,776	1,451	39,308	(39,308)	0
計	200,142	18,693	26,331	245,168	(39,308)	205,859
営業費用	166,094	18,297	25,644	210,036	(39,503)	170,533
営業利益	34,048	396	687	35,131	194	35,326
II. 資産	189,933	11,679	10,344	211,957	(13,094)	198,862

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア……マレーシア、大韓民国、台湾、シンガポール共和国、中華人民共和国

(2) アメリカ……アメリカ合衆国

当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	アメリカ (百万円)	計 (百万円)	消去または 全社 (百万円)	連結 (百万円)
I. 売上高および営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	181,028	14,525	19,452	215,007		215,007
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	28,600	1,240	1,205	31,045	(31,045)	0
計	209,629	15,766	20,657	246,052	(31,045)	215,007
営業費用	185,455	15,517	20,143	221,116	(31,235)	189,880
営業利益	24,173	248	514	24,936	190	25,126
II. 資産	189,052	9,900	6,866	205,819	(7,343)	198,475

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア……マレーシア、大韓民国、台湾、シンガポール共和国、中華人民共和国

(2) アメリカ……アメリカ合衆国

3. 「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ①有形固定資産(会計方針の変更)」に記載のとおり、当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の営業費用は、日本が1,566百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

4. 「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ①有形固定資産(追加情報)」に記載のとおり、当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の営業費用は、日本が853百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

【海外売上高】

最近2連結会計年度における海外売上高は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成18年4月1日至平成19年3月31日)

	アジア	アメリカ	その他	計
I 海外売上高(百万円)	99,347	21,776	7,440	128,564
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	205,859
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	48.3	10.6	3.6	62.5

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア……マレーシア、大韓民国、台湾、シンガポール共和国、中華人民共和国ほか

(2) アメリカ……アメリカ合衆国ほか

3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

当連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

	アジア	アメリカ	その他	計
I 海外売上高(百万円)	85,526	31,351	4,366	121,244
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	215,007
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	39.8	14.6	2.0	56.4

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア……マレーシア、大韓民国、台湾、シンガポール共和国、中華人民共和国ほか

(2) アメリカ……アメリカ合衆国ほか

3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

【関連当事者との取引】

前連結会計年度（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社名	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)	
						役員の 兼任等	事業上 の関係					
親会社 の 子会社	富士通 キャピ タル(株)	東京都 港区	100	資金の 貸付	なし	役員 1名	資金運用 の委託	営業取 引以外 の取引	資金運用 の委託	47,020	預け金	13,620
									受取利息	18		

(注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

資金運用の委託については、委託期間および市中金利等を勘案して決定しております。

当連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

兄弟会社等

属性	会社名	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)	
						役員の 兼任等	事業上 の関係					
親会社 の 子会社	富士通 キャピ タル(株)	東京都 港区	100	資金の 貸付	なし	役員 1名	資金運用 の委託	営業取 引以外 の取引	資金運用 の委託	116,800	預け金	20,940
									受取利息	79		

(注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

資金運用の委託については、委託期間および市中金利等を勘案して決定しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,000.33円	1株当たり純資産額	1,059.98円
1株当たり当期純利益	142.32円	1株当たり当期純利益	83.92円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	142.30円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
<p>当社は、平成18年4月1日付をもって株式1株につき3株の株式分割を行っております。</p> <p>なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報については、それぞれ以下のとおりとなります。</p>			
前連結会計年度			
1株当たり純資産額	867.76円		
1株当たり当期純利益	120.38円		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	120.31円		

(注) 1株当たり当期純利益および潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	19,225	11,336
普通株主に帰属しない金額(百万円)	0	0
普通株式に係る当期純利益(百万円)	19,225	11,336
期中平均株式数(千株)	135,083	135,091
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(百万円)	0	0
普通株式増加数(千株)	17	0
(うち自己株式取得方式によるストック・オプション)	(17)	(0)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,500	1,000	1.0	——
1年以内に返済予定の長期借入金	0	0	——	——
1年以内に返済予定のリース債務		205	——	——
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	980	0	——	——
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）		147	——	平成21年～ 平成24年
その他の有利子負債			——	——
計	2,480	1,352	——	——

(注) 1. 平均利率の算定に当たりましては、期末残高の加重平均利率によっております。

なお、リース債務につきましては、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、平均利率の記載を行っておりません。

2. リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	107	31	6	2

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

①【貸借対照表】

区分	注記 番号	第72期 (平成19年3月31日)		第73期 (平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金			12,390		13,382
2. 受取手形			76		122
3. 売掛金	※1		70,354		67,646
4. 有価証券					1,030
5. 製品			571		805
6. 原材料			1,273		839
7. 仕掛品			6,092		5,465
8. 貯蔵品			523		568
9. 未収入金	※2		1,475		1,522
10. 預け金			13,620		20,940
11. 繰延税金資産			2,668		2,090
12. その他			328		169
流動資産合計			109,375	56.0	114,582
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物	※3	42,499		43,242	
減価償却累計額		△23,686	18,812	△24,983	18,258
(2) 構築物		4,215		4,351	
減価償却累計額		△2,833	1,381	△2,970	1,380
(3) 機械装置		131,818		145,099	
減価償却累計額		△94,943	36,875	△110,362	34,737
(4) 工具器具及び備品		39,024		39,575	
減価償却累計額		△35,582	3,441	△36,030	3,544
(5) 土地			6,125		6,137
(6) 建設仮勘定			5,688		5,247
有形固定資産合計			72,324	37.0	69,307

区分	注記 番号	第72期 (平成19年3月31日)		第73期 (平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
2. 無形固定資産					
(1) 借地権		86		86	
(2) 施設利用権		25		21	
(3) 電話加入権		21		21	
(4) ソフトウェア		1,598		1,415	
無形固定資産合計		1,731	1.0	1,544	0.8
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券		947		351	
(2) 関係会社株式		7,094		7,094	
(3) 従業員長期貸付金		—		—	
(4) 関係会社長期貸付金		1,009		0	
(5) 長期前払費用		410		516	
(6) 繰延税金資産		2,911		1,824	
(7) その他		598		1,104	
(8) 貸倒引当金		△1,004		△21	
投資その他の資産合計		11,967	6.0	10,869	5.5
固定資産合計		86,023	44.0	81,720	41.6
資産合計		195,398	100.0	196,303	100.0
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 買掛金		29,796		32,747	
2. 短期借入金		1,500		1,000	
3. 未払金		9,514		6,549	
4. 未払法人税等		7,670		958	
5. 未払費用		8,994		8,312	
6. 預り金		272		197	
7. 前受金		9		1	
8. その他		452		610	
流動負債合計		58,209	29.8	50,377	25.6

区分	注記 番号	第72期 (平成19年3月31日)		第73期 (平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
II 固定負債					
1. 退職給付引当金			3,751		3,678
2. 役員退職慰労引当金			556		0
3. その他					573
固定負債合計			4,308	2.2	4,251
負債合計			62,518	32.0	54,629
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金			24,223	12.4	24,223
2. 資本剰余金					
(1) 資本準備金		6,055		6,055	
(2) その他資本剰余金		18,073		18,073	
資本剰余金合計			24,129	12.3	24,129
3. 利益剰余金					
(1) その他利益剰余金					
特別償却準備金		156		106	
固定資産圧縮積立金		46		0	
別途積立金		64,126		79,126	
繰越利益剰余金		19,836		14,029	
利益剰余金合計			84,166	43.1	93,263
4. 自己株式			△90	—	△91
株主資本合計			132,428	67.8	141,524
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券 評価差額金			446	0.2	150
2. 繰延ヘッジ損益			5	—	0
評価・換算差額等合計			451	0.2	150
純資産合計			132,880	68.0	141,674
負債純資産合計			195,398	100.0	196,303

②【損益計算書】

区分	注記 番号	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			200,100	100.0		209,582	100.0
II 売上原価							
1. 期首製品たな卸高		687				571	
2. 当期製品製造原価		150,871				170,703	
合計		151,558				171,275	
3. 期末製品たな卸高		571				805	
4. 他勘定振替高	※1	213	150,773	75.3	93	170,376	81.3
売上総利益			49,327	24.7		39,205	18.7
III 販売費及び一般管理費	※2.3		15,376	7.7		15,157	7.2
営業利益			33,950	17.0		24,047	11.5
IV 営業外収益							
1. 受取利息		294				463	
2. 受取配当金	※4	316				556	
3. 賃貸料		18				17	
4. 技術料	※4	374				420	
5. 国庫補助金等受贈益						300	
6. 雑収入		657	1,661	0.8	571	2,330	1.1
V 営業外費用							
1. 支払利息		7				9	
2. 賃貸資産減価償却費		4				17	
3. 退職給付積立不足償却額		524				524	
4. 為替差損		1,002				4,895	
5. 雑支出		487	2,026	1.0	573	6,020	2.9
經常利益			33,584	16.8		20,357	9.7

区分	注記 番号	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
VI 特別損失					
1. 固定資産除却損	※5	1,437		742	
2. 減損損失	※6	780	2,217	0	742
税引前当期純利益			31,367		19,614
法人税、住民税及び事 業税		12,455		5,813	
法人税等調整額		308	12,764	1,868	7,681
当期純利益			18,602		11,933

製造原価明細書

区分	注記 番号	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		71,565	46.3	83,982	48.3
II 労務費		29,595	19.1	29,697	17.1
III 経費	※1	53,509	34.6	60,298	34.6
当期総製造費用		154,670	100.0	173,978	100.0
期首仕掛品たな卸高		5,424		6,092	
合計		160,094		180,071	
期末仕掛品たな卸高		6,092		5,465	
他勘定振替高	※2	3,130		3,902	
当期製品製造原価		150,871		170,703	

(注) ※1. 経費のうち主なものは第72期減価償却費17,048百万円、外注加工費12,715百万円、第73期減価償却費22,353百万円、外注加工費14,194百万円であります。

※2. 他勘定振替高の主なものは固定資産への振替高であり第72期2,080百万円、第73期2,731百万円であります。

原価計算の方法

当社の原価計算方法は予定原価に基づく工程別総合原価計算によっております。なお、期中に発生する原価差額は期末において実際原価に調整しております。

③【株主資本等変動計算書】

第72期（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金				利益剰余金合計		
					特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
平成18年3月31日 残高 (百万円)	24,223	6,055	18,076	24,131	108	46	49,126	18,058	67,339	△151	115,542
事業年度中の変動額											
特別償却準備金の繰入れ(注)					124			△124	0		0
特別償却準備金の取崩し(注)					△27			27	0		0
特別償却準備金の取崩し					△47			47	0		0
別途積立金の積立て(注)							15,000	△15,000	0		0
剰余金の配当(注)								△855	△855		△855
剰余金の配当								△810	△810		△810
役員賞与(注)								△110	△110		△110
当期純利益								18,602	18,602		18,602
自己株式の取得										△1	△1
自己株式の処分			△2	△2						62	60
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)											
事業年度中の変動額合計 (百万円)	0	0	△2	△2	48	0	15,000	1,778	16,827	60	16,885
平成19年3月31日 残高 (百万円)	24,223	6,055	18,073	24,129	156	46	64,126	19,836	84,166	△90	132,428

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月31日 残高 (百万円)	409		409	115,952
事業年度中の変動額				
特別償却準備金の繰入れ(注)				0
特別償却準備金の取崩し(注)				0
特別償却準備金の取崩し				0
別途積立金の積立て(注)				0
剰余金の配当(注)				△855
剰余金の配当				△810
役員賞与(注)				△110
当期純利益				18,602
自己株式の取得				△1
自己株式の処分				60
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	36		41	41
事業年度中の変動額合計 (百万円)	36		41	16,927
平成19年3月31日 残高 (百万円)	446		451	132,880

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

第73期（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金				利益剰余金合計		
					特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
平成19年3月31日 残高 (百万円)	24,223	6,055	18,073	24,129	156	46	64,126	19,836	84,166	△90	132,428
事業年度中の変動額											
特別償却準備金の取崩し					△49			49	0		0
固定資産圧縮積立金の取崩し						△46		46	0		0
別途積立金の積立て							15,000	△15,000	0		0
剰余金の配当								△2,836	△2,836		△2,836
当期純利益								11,933	11,933		11,933
自己株式の取得										—	—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)											
事業年度中の変動額合計 (百万円)	0	0	0	0	△49	△46	15,000	△5,807	9,096	—	9,095
平成20年3月31日 残高 (百万円)	24,223	6,055	18,073	24,129	106	0	79,126	14,029	93,263	△91	141,524

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日 残高 (百万円)	446	5	451	132,880
事業年度中の変動額				
特別償却準備金の取崩し				0
固定資産圧縮積立金の取崩し				0
別途積立金の積立て				0
剰余金の配当				△2,836
当期純利益				11,933
自己株式の取得				—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	△296	△5	△301	△301
事業年度中の変動額合計 (百万円)	△296	△5	△301	8,794
平成20年3月31日 残高 (百万円)	150	0	150	141,674

重要な会計方針

項目	第72期 (自 平成18年 4月 1日 至 平成19年 3月31日)	第73期 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)
1. 有価証券の評価基準および評価方法	(1) 子会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 同左 (2) 同左
2. デリバティブの評価基準および評価方法	時価法	同左
3. たな卸資産の評価基準および評価方法	製品・仕掛品 総平均法による原価法 原材料・貯蔵品 先入先出法による原価法	製品・仕掛品 総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） 原材料・貯蔵品 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） (会計方針の変更) 「棚卸資産の評価に関する会計基準」 (企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が平成20年3月31日以前に開始する事業年度に係る財務諸表から適用できることになったことに伴い、当事業年度より同会計基準を適用しております。 これによる営業利益、経常利益および税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。
4. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数はつぎのとおりであります。 建物 15～38年 機械装置 5～12年	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数はつぎのとおりであります。 建物 15～38年 機械装置 5～12年 (会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年4月1日以降に取得した資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより営業利益、経常利益および税引前当期純利益がそれぞれ1,566百万円減少しております。

項目	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
<p>5. 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準</p> <p>6. 引当金の計上基準</p>	<p>(2) 無形固定資産 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) _____</p> <p>外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権等の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権について個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(追加情報)</p> <p>法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>これにより営業利益、経常利益および税引前当期純利益がそれぞれ852百万円減少しております。</p> <p>(2) 同左</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>(会計方針の変更) 「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))および「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成19年4月1日以後開始する事業年度から適用できることになったことに伴い、当事業年度より同会計基準および同適用指針を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益および税引前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>同左</p> <p>(1) 同左</p>

項目	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
7. リース取引の処理方法	<p>(2) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。 (会計方針の変更) 当事業年度より、「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号平成17年11月29日)を適用しております。 これによる営業利益、経常利益および税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異については、10年による按分額、また、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理しております。 また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づき期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(2) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 _____</p> <p>(追加情報) 従来、役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を役員退職慰労引当金として計上してはいたしましたが、第72回定時株主総会(平成19年6月28日開催)において、役員退職慰労金制度の廃止を決議いたしました。 _____</p>
8. ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。</p>	<p>(1) 同左</p>

項目	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 ヘッジ対象 為替予約取引 外貨建予定取引 通貨オプション 外貨建予定取引 取引	(2) 同左
	(3) ヘッジ方針 当社は、将来の為替の相場変動に伴うリスクの軽減を図る目的で、デリバティブ取引に関する管理規定を定めており、その規定に基づきヘッジの有効性を判定し、デリバティブ取引を行っております。	(3) 同左
	(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較勘案し、有効性を評価しております。	(4) 同左
	消費税等の会計処理方法 税抜方式を採用しております。	同左

会計処理方法の変更

第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
<p>(貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準) 当事業年度より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)および「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。 これまでの資本の部の合計に相当する金額は132,875百万円であります。 なお、当事業年度における貸借対照表の純資産の部については、財務諸表等規則の改正に伴い、改正後の財務諸表等規則により作成しております。</p>	<p>—————</p>

表示方法の変更

第72期 (自 平成18年 4月 1日 至 平成19年 3月31日)	第73期 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)
—————	<p>(貸借対照表)</p> <p>前事業年度末において「現金及び預金」に含めて表示しておりました国内譲渡性預金は、当事業年度末より改正後の財務諸表等規則に基づき、「有価証券」として表示しております。</p> <p>なお、国内譲渡性預金の金額は、前事業年度末が4,820百万円、当事業年度末が1,030百万円であります。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

第72期 (平成19年 3月31日)	第73期 (平成20年 3月31日)								
<p>※1. 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p>売掛金 11,872百万円</p> <p>※2. 消費税等 未収消費税等は、流動資産の「未収入金」に含めて表示しております。</p> <p>※3. —————</p> <p>4. 保証債務残高は、次のとおりであり、下記被保証先の買入債務等に対するものであります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">保証先</th> <th style="text-align: center;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.</td> <td style="text-align: center;">10百万円 (301千マレーシアリングット)</td> </tr> </tbody> </table>	保証先	金額	SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	10百万円 (301千マレーシアリングット)	<p>※1. 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p>売掛金 7,891百万円</p> <p>※2. 同左</p> <p>※3. 国庫補助金等の受入れにより、取得価額から直接控除した圧縮記帳額は358百万円であります。</p> <p>4. 保証債務残高は、次のとおりであり、下記被保証先の買入債務等に対するものであります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">保証先</th> <th style="text-align: center;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.</td> <td style="text-align: center;">9百万円 (288千マレーシアリングット)</td> </tr> </tbody> </table>	保証先	金額	SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	9百万円 (288千マレーシアリングット)
保証先	金額								
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	10百万円 (301千マレーシアリングット)								
保証先	金額								
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	9百万円 (288千マレーシアリングット)								

(損益計算書関係)

第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)																																																												
<p>※1. 他勘定振替高は、主に販売費及び一般管理費への振替高であり、金額は次のとおりであります。 171百万円</p> <p>※2. 販売費及び一般管理費</p> <p>(1) 割合</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>販売費</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table> <p>(2) 主要費目</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>荷造費・運賃・保管料</td> <td style="text-align: right;">1,687百万円</td> </tr> <tr> <td>販売手数料</td> <td style="text-align: right;">2,050百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,948百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員賞与</td> <td style="text-align: right;">894百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">124百万円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">3,975百万円</td> </tr> </table> <p>※3. 研究開発費の総額 3,975百万円</p> <p>※4. 関係会社との間の取引高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">311百万円</td> </tr> <tr> <td>技術料</td> <td style="text-align: right;">148百万円</td> </tr> </table> <p>※5. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">245百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td style="text-align: right;">512百万円</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">258百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">422百万円</td> </tr> </table> <p>※6. 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">新潟県阿賀野市</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、原則として、事業用資産については管理会計上の事業区分等を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。</p> <p>当事業年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（780百万円）として特別損失に計上しました。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については不動産鑑定評価額により評価しております。</p>	販売費	50%	一般管理費	50%	荷造費・運賃・保管料	1,687百万円	販売手数料	2,050百万円	従業員給料手当	1,948百万円	従業員賞与	894百万円	減価償却費	124百万円	研究開発費	3,975百万円	受取配当金	311百万円	技術料	148百万円	建物	245百万円	機械装置	512百万円	工具器具及び備品	258百万円	その他	422百万円	場所	用途	種類	新潟県阿賀野市	遊休資産	土地	<p>※1. 他勘定振替高は、主に販売費及び一般管理費への振替高であり、金額は次のとおりであります。 70百万円</p> <p>※2. 販売費及び一般管理費</p> <p>(1) 割合</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>販売費</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table> <p>(2) 主要費目</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>荷造費・運賃・保管料</td> <td style="text-align: right;">1,808百万円</td> </tr> <tr> <td>販売手数料</td> <td style="text-align: right;">2,066百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,995百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員賞与</td> <td style="text-align: right;">872百万円</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">4,396百万円</td> </tr> </table> <p>※3. 研究開発費の総額 4,396百万円</p> <p>※4. 関係会社との間の取引高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">551百万円</td> </tr> <tr> <td>技術料</td> <td style="text-align: right;">170百万円</td> </tr> </table> <p>※5. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">61百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td style="text-align: right;">224百万円</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">63百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">392百万円</td> </tr> </table> <p>※6. _____</p>	販売費	50%	一般管理費	50%	荷造費・運賃・保管料	1,808百万円	販売手数料	2,066百万円	従業員給料手当	1,995百万円	従業員賞与	872百万円	研究開発費	4,396百万円	受取配当金	551百万円	技術料	170百万円	建物	61百万円	機械装置	224百万円	工具器具及び備品	63百万円	その他	392百万円
販売費	50%																																																												
一般管理費	50%																																																												
荷造費・運賃・保管料	1,687百万円																																																												
販売手数料	2,050百万円																																																												
従業員給料手当	1,948百万円																																																												
従業員賞与	894百万円																																																												
減価償却費	124百万円																																																												
研究開発費	3,975百万円																																																												
受取配当金	311百万円																																																												
技術料	148百万円																																																												
建物	245百万円																																																												
機械装置	512百万円																																																												
工具器具及び備品	258百万円																																																												
その他	422百万円																																																												
場所	用途	種類																																																											
新潟県阿賀野市	遊休資産	土地																																																											
販売費	50%																																																												
一般管理費	50%																																																												
荷造費・運賃・保管料	1,808百万円																																																												
販売手数料	2,066百万円																																																												
従業員給料手当	1,995百万円																																																												
従業員賞与	872百万円																																																												
研究開発費	4,396百万円																																																												
受取配当金	551百万円																																																												
技術料	170百万円																																																												
建物	61百万円																																																												
機械装置	224百万円																																																												
工具器具及び備品	63百万円																																																												
その他	392百万円																																																												

(株主資本等変動計算書関係)

第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式 (注)	45,553	91,569	56,636	80,486
合計	45,553	91,569	56,636	80,486

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加91,569株は、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で株式分割したことによる91,106株の増加および単元未満株式の買取りによる463株の増加であり、減少の56,636株は、ストック・オプション権利行使分56,600株および単元未満株式の売渡し36株によるものであります。

第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式 (注)	80,486	366	0	80,852
合計	80,486	366	0	80,852

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加366株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(リース取引関係)

第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)																												
<p>1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 20%;">取得価額相当額 (百万円)</th> <th style="width: 20%;">減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th style="width: 30%;">期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">1,099</td> <td style="text-align: center;">697</td> <td style="text-align: center;">401</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未経過リース料期末残高相当額</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">一年内</td> <td style="text-align: right;">222百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">一年超</td> <td style="text-align: right;">179百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">401百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">227百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">227百万円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法</p> <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未経過リース料</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">一年内</td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">一年超</td> <td style="text-align: right;">7百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10百万円</td> </tr> </table>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	工具器具及び備品	1,099	697	401	未経過リース料期末残高相当額		一年内	222百万円	一年超	179百万円	合計	401百万円	支払リース料	227百万円	減価償却費相当額	227百万円	未経過リース料		一年内	3百万円	一年超	7百万円	合計	10百万円	<p>—————</p>
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																										
工具器具及び備品	1,099	697	401																										
未経過リース料期末残高相当額																													
一年内	222百万円																												
一年超	179百万円																												
合計	401百万円																												
支払リース料	227百万円																												
減価償却費相当額	227百万円																												
未経過リース料																													
一年内	3百万円																												
一年超	7百万円																												
合計	10百万円																												

(有価証券関係)

第72期(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)および第73期(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)における子会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

第72期 (平成19年3月31日)	第73期 (平成20年3月31日)																																																																				
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">1,791百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,318百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">780百万円</td></tr> <tr><td>関係会社株式評価損</td><td style="text-align: right;">751百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">600百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">224百万円</td></tr> <tr><td>未払賞与に係る社会保険料</td><td style="text-align: right;">184百万円</td></tr> <tr><td>一括償却資産の減価償却費損金算</td><td></td></tr> <tr><td>入限度超過額</td><td style="text-align: right;">79百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">990百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;"><u>6,721百万円</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;"><u>△780百万円</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;"><u>5,940百万円</u></td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額</td><td style="text-align: right;">△215百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△106百万円</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">△32百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△7百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;"><u>△361百万円</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;"><u>5,579百万円</u></td></tr> </table>	未払賞与	1,791百万円	退職給付引当金	1,318百万円	減損損失	780百万円	関係会社株式評価損	751百万円	未払事業税	600百万円	役員退職慰労引当金	224百万円	未払賞与に係る社会保険料	184百万円	一括償却資産の減価償却費損金算		入限度超過額	79百万円	その他	990百万円	繰延税金資産小計	<u>6,721百万円</u>	評価性引当額	<u>△780百万円</u>	繰延税金資産計	<u>5,940百万円</u>	その他有価証券評価差額	△215百万円	特別償却準備金	△106百万円	固定資産圧縮積立金	△32百万円	その他	△7百万円	繰延税金負債計	<u>△361百万円</u>	繰延税金資産の純額	<u>5,579百万円</u>	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未払賞与</td><td style="text-align: right;">1,716百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,082百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">315百万円</td></tr> <tr><td>未払賞与に係る社会保険料</td><td style="text-align: right;">186百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">128百万円</td></tr> <tr><td>一括償却資産の減価償却費損金算</td><td></td></tr> <tr><td>入限度超過額</td><td style="text-align: right;">79百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">837百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;"><u>4,346百万円</u></td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;"><u>△344百万円</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;"><u>4,001百万円</u></td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△72百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額</td><td style="text-align: right;">△14百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;"><u>△86百万円</u></td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;"><u>3,914百万円</u></td></tr> </table>	未払賞与	1,716百万円	退職給付引当金	1,082百万円	減損損失	315百万円	未払賞与に係る社会保険料	186百万円	未払事業税	128百万円	一括償却資産の減価償却費損金算		入限度超過額	79百万円	その他	837百万円	繰延税金資産小計	<u>4,346百万円</u>	評価性引当額	<u>△344百万円</u>	繰延税金資産計	<u>4,001百万円</u>	特別償却準備金	△72百万円	その他有価証券評価差額	△14百万円	繰延税金負債計	<u>△86百万円</u>	繰延税金資産の純額	<u>3,914百万円</u>
未払賞与	1,791百万円																																																																				
退職給付引当金	1,318百万円																																																																				
減損損失	780百万円																																																																				
関係会社株式評価損	751百万円																																																																				
未払事業税	600百万円																																																																				
役員退職慰労引当金	224百万円																																																																				
未払賞与に係る社会保険料	184百万円																																																																				
一括償却資産の減価償却費損金算																																																																					
入限度超過額	79百万円																																																																				
その他	990百万円																																																																				
繰延税金資産小計	<u>6,721百万円</u>																																																																				
評価性引当額	<u>△780百万円</u>																																																																				
繰延税金資産計	<u>5,940百万円</u>																																																																				
その他有価証券評価差額	△215百万円																																																																				
特別償却準備金	△106百万円																																																																				
固定資産圧縮積立金	△32百万円																																																																				
その他	△7百万円																																																																				
繰延税金負債計	<u>△361百万円</u>																																																																				
繰延税金資産の純額	<u>5,579百万円</u>																																																																				
未払賞与	1,716百万円																																																																				
退職給付引当金	1,082百万円																																																																				
減損損失	315百万円																																																																				
未払賞与に係る社会保険料	186百万円																																																																				
未払事業税	128百万円																																																																				
一括償却資産の減価償却費損金算																																																																					
入限度超過額	79百万円																																																																				
その他	837百万円																																																																				
繰延税金資産小計	<u>4,346百万円</u>																																																																				
評価性引当額	<u>△344百万円</u>																																																																				
繰延税金資産計	<u>4,001百万円</u>																																																																				
特別償却準備金	△72百万円																																																																				
その他有価証券評価差額	△14百万円																																																																				
繰延税金負債計	<u>△86百万円</u>																																																																				
繰延税金資産の純額	<u>3,914百万円</u>																																																																				
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の5/100以下のため、注記を省略しております。</p>	<p>2. 同左</p>																																																																				

(1株当たり情報)

第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)		第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	983.63円	1株当たり純資産額	1,048.73円
1株当たり当期純利益	137.71円	1株当たり当期純利益	88.33円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	137.70円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
<p>当社は、平成18年4月1日付をもって株式1株につき3株の株式分割を行っております。</p> <p>なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報については、それぞれ以下のとおりとなります。</p>			
前事業年度			
1株当たり純資産額	857.87円		
1株当たり当期純利益	117.36円		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	117.29円		

(注) 1株当たり当期純利益および潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第72期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	第73期 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	18,602	11,933
普通株主に帰属しない金額(百万円)	0	0
普通株式に係る当期純利益(百万円)	18,602	11,933
期中平均株式数(千株)	135,083	135,091
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(百万円)	0	0
普通株式増加数(千株)	17	0
(うち自己株式取得方式によるストック・オプション)	(17)	(0)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の1/100以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末の減価 償却累計額ま たは償却累計 額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	42,499	1,341	598	43,242	24,983	1,474	18,258
構築物	4,215	152	15	4,351	2,970	150	1,380
機械装置	131,818	16,603	3,323	145,099	110,362	18,450	34,737
工具器具及び備品	39,024	3,350	2,799	39,575	36,030	3,170	3,544
土地	6,125	12	0	6,137			6,137
建設仮勘定	5,688	20,413	20,853	5,247			5,247
有形固定資産計	229,371	41,874	27,591	243,654	174,347	23,245	69,307
無形固定資産							
借地権				86			86
施設利用権				53	32	3	21
電話加入権				21			21
ソフトウェア				2,751	1,336	543	1,415
無形固定資産計				2,913	1,368	546	1,544
長期前払費用	891	294	299	886	370	188	516
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1. 工具器具及び備品の「当期増加額」には、「リース取引に関する会計基準」および「リース取引に関する会計基準の適用指針」を早期適用したことによる適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引の固定資産への計上額401百万円が含まれております。

2. 当期増加額および当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

区分	資産の種類	事由	金額 (百万円)
増加	機械装置	更北工場 I Cパッケージ製造設備	4,172
		若穂工場 I Cパッケージ製造設備	3,990
		新井工場 I Cパッケージ製造設備	3,956
		高丘工場 I Cリードフレーム製造設備	1,415
	工具器具及び備品	高丘工場 I Cリードフレーム用金型	1,092
		建設仮勘定	
	建設仮勘定	更北工場 I Cパッケージ製造設備	1,285
		若穂工場 I Cパッケージ製造設備	975
新井工場 I Cパッケージ製造設備		740	
高丘工場 I Cリードフレーム用金型		729	

区分	資産の種類	事由	金額（百万円）
減少	機械装置	若穂工場 I C パッケージ製造設備	1,565
	工具器具及び備品	高丘工場 I C リードフレーム用金型	1,785

3. 無形固定資産の金額が資産の総額の1/100以下であるため「前期末残高」、「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 （百万円）	当期増加額 （百万円）	当期減少額 （目的使用） （百万円）	当期減少額 （その他） （百万円）	当期末残高 （百万円）
貸倒引当金	1,004	0	982	0	21
役員賞与引当金	115	90	106	8	90
役員退職慰労引当金	556	20	151	425	0

(注) 1. 役員賞与引当金の「当期減少額（その他）」は、前期引当金計上額と当期支払額との差額を取崩したものであります。

2. 役員退職慰労引当金の「当期減少額（その他）」は、役員退職慰労金制度廃止による役員退職慰労金の打ち切り支給の決議に伴う、長期未払金（固定負債 その他）への振替額であります。

(2) 【主な資産および負債の内容】

① 現金及び預金

区分	金額（百万円）
現金	—
預金	
普通預金	4,081
定期預金	9,301
合計	13,382

② 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
ソニーサプライチェーンソリューション(株)	32
アオイ電子(株)	23
エムテックスマツムラ(株)	14
ミヨシ電子(株)	9
その他	42
合計	122

(ロ)期日別内訳

期日別	金額 (百万円)
平成20年 4月	26
5月	47
6月	32
7月	13
8月	2
合計	122

③ 売掛金

(イ)相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
岩手東芝エレクトロニクス(株)	15,310
INTEL CORPORATION	11,721
ソニーセミコンダクタ九州(株)	5,936
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.	5,211
(株)ルネサス テクノロジ	4,479
その他	24,987
合計	67,646

(ロ)売掛金の発生および回収ならびに滞留状況

前期末残高 (百万円)	当期発生額 (百万円)	当期回収額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{\quad}{(B)}$ 366
70,354	214,346	217,055	67,646	76.2	117.8

(注) 当期発生額には、消費税等の額を含めております。

④ 製品

区分	金額 (百万円)
I Cリードフレーム	127
I Cパッケージ	595
気密部品	81
合計	805

⑤ 原材料

区分	金額（百万円）
主要原材料	
I C組立材料	384
銅合金	69
鉄・ニッケル合金	70
テープ材	30
貴金属	35
その他	227
小計	819
補助材料	19
合計	839

⑥ 仕掛品

区分	金額（百万円）
I Cリードフレーム	822
I Cパッケージ	3,795
気密部品	846
合計	5,465

⑦ 貯蔵品

区分	金額（百万円）
工場消耗品他	568

⑧ 預け金

相手先	金額（百万円）
富士通キャピタル(株)	20,940

⑨ 買掛金

相手先	金額（百万円）
フジノン(株)	7,588
日立電線商事(株)	1,434
富士通インターコネクテクトテクノロジーズ(株)	1,338
(株)村田製作所	1,133
大日本印刷(株)	1,132
その他	20,119
合計	32,747

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日（注）1.	3月31日
株券の種類	100株券、1,000株券、10,000株券の3種類
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
単元株式数	100株
株式の名義書換 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料 株券喪失登録 株券喪失登録手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 無料 1枚につき200円 喪失登録1件につき10,000円、喪失登録株券1枚につき500円
単元未満株式の買取り・売渡し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 株式の売買委託に係る手数料として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL http://www.shinko.co.jp/ir/kk/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1. 本基準日のほか、必要があるときは、取締役会決議によりあらかじめ公告のうえ、一定の日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主および実質株主をもってその権利を行使すべき株主とみなすことがあります。

2. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 発行登録書（普通社債）およびその添付書類
平成19年4月9日関東財務局長に提出
- (2) 有価証券報告書およびその添付書類
事業年度（第72期）（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）平成19年6月29日関東財務局長に提出
- (3) 訂正発行登録書
平成19年6月29日関東財務局長に提出
- (4) 半期報告書
（第73期中）（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）平成19年12月20日関東財務局長に提出
- (5) 訂正発行登録書
平成19年12月20日関東財務局長に提出
- (6) 臨時報告書
平成20年4月17日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。
- (7) 訂正発行登録書
平成20年4月17日関東財務局長に提出
- (8) 有価証券報告書の訂正報告書
事業年度（第72期）（自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日）平成20年6月30日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成19年6月29日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田 周二 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 角田 伸理之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小林 宏 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成18年4月1日から平成19年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社及び連結子会社の平成19年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成20年6月24日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田 周二 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 角田 伸理之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 堀越 喜臣 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成19年4月1日から平成20年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社及び連結子会社の平成20年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成19年6月29日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田 周二 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 角田 伸理之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小林 宏 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成18年4月1日から平成19年3月31日までの第72期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社の平成19年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成20年6月24日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田 周二 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 角田 伸理之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 堀越 喜臣 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第73期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社の平成20年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。